



令和 4 年度

ミアーズ中学校交流事業
ダイヤモンド高校短期派遣事業
青年海外派遣研修

アメリカ合衆国アラスカ州アンカレジ市



目 次

1. ミアーズ中学校交流事業・ダイヤモンド高校短期派遣事業

(1) 事業概要	1
(2) 感想文	4
① 団長	4
② ミアーズ中学校交流事業 参加者	5
③ ダイヤモンド高校短期派遣事業 参加者	14
④ 引率者	20
(3) 思い出のスナップ	24

2. 青年海外派遣研修

(1) 研修概要	44
(2) 感想文	46
① 団長	46
② 青年海外派遣研修 参加者	47
③ 引率者	56
(3) 思い出のスナップ	59
(4) 過去の青年海外派遣研修の実績	76

3. 合同市民報告会

お世話になった先生方	79
------------	----

1. ミアーズ中学校交流事業・ダイヤモンド高校短期派遣事業

■ミアーズ中学校交流事業

【目的】	アンカレジ市のミアーズ中学校へ市内の中学生を派遣し、授業体験やホームステイ等を通して両市の中学生が相互の文化や言語、歴史などを学び合い国際感覚を養うとともに、学校及び生徒間における友好の輪を広げることを目的としています。																																																												
【主催】	千歳国際・友好都市交流協会																																																												
【訪問先】	アメリカ合衆国アラスカ州アンカレジ市ミアーズ中学校																																																												
【訪問日程】	2023年1月7日（土）～ 1月14日（土）																																																												
【参加者】	<table><tr><td>1</td><td>浅野 智久</td><td>(あさの ともひさ)</td><td>青葉中学校</td><td>1年</td></tr><tr><td>2</td><td>岩本 世那</td><td>(いわもと せな)</td><td>千歳中学校</td><td>2年</td></tr><tr><td>3</td><td>鎌田 真奈</td><td>(かまだ まな)</td><td>勇舞中学校</td><td>1年</td></tr><tr><td>4</td><td>坂上 れい</td><td>(さかがみ れい)</td><td>千歳中学校</td><td>1年</td></tr><tr><td>5</td><td>対木 美玖</td><td>(ついき みく)</td><td>勇舞中学校</td><td>1年</td></tr><tr><td>6</td><td>中野 姫翠</td><td>(なかの ひすい)</td><td>富丘中学校</td><td>2年</td></tr><tr><td>7</td><td>水野 陽菜子</td><td>(みずの ひなこ)</td><td>千歳中学校</td><td>1年</td></tr><tr><td>8</td><td>谷部 瑠星</td><td>(やべ りゅうせい)</td><td>千歳中学校</td><td>1年</td></tr><tr><td>9</td><td>山田 ひより</td><td>(やまだ ひより)</td><td>富丘中学校</td><td>2年</td></tr></table> <p>-----</p> <table><tr><td>団長</td><td>松原 謙二</td><td>千歳市教育委員会学校指導室長 (団長)</td></tr><tr><td>引率</td><td>水野 豪人</td><td>千歳高校 教諭</td></tr><tr><td>引率</td><td>小坂 孝男</td><td>千歳国際・友好都市交流協会 事務局次長</td></tr><tr><td>引率</td><td>高橋 美和</td><td>千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記</td></tr><tr><td>引率</td><td>松平 朋子</td><td>千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記</td></tr></table>	1	浅野 智久	(あさの ともひさ)	青葉中学校	1年	2	岩本 世那	(いわもと せな)	千歳中学校	2年	3	鎌田 真奈	(かまだ まな)	勇舞中学校	1年	4	坂上 れい	(さかがみ れい)	千歳中学校	1年	5	対木 美玖	(ついき みく)	勇舞中学校	1年	6	中野 姫翠	(なかの ひすい)	富丘中学校	2年	7	水野 陽菜子	(みずの ひなこ)	千歳中学校	1年	8	谷部 瑠星	(やべ りゅうせい)	千歳中学校	1年	9	山田 ひより	(やまだ ひより)	富丘中学校	2年	団長	松原 謙二	千歳市教育委員会学校指導室長 (団長)	引率	水野 豪人	千歳高校 教諭	引率	小坂 孝男	千歳国際・友好都市交流協会 事務局次長	引率	高橋 美和	千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記	引率	松平 朋子	千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記
1	浅野 智久	(あさの ともひさ)	青葉中学校	1年																																																									
2	岩本 世那	(いわもと せな)	千歳中学校	2年																																																									
3	鎌田 真奈	(かまだ まな)	勇舞中学校	1年																																																									
4	坂上 れい	(さかがみ れい)	千歳中学校	1年																																																									
5	対木 美玖	(ついき みく)	勇舞中学校	1年																																																									
6	中野 姫翠	(なかの ひすい)	富丘中学校	2年																																																									
7	水野 陽菜子	(みずの ひなこ)	千歳中学校	1年																																																									
8	谷部 瑠星	(やべ りゅうせい)	千歳中学校	1年																																																									
9	山田 ひより	(やまだ ひより)	富丘中学校	2年																																																									
団長	松原 謙二	千歳市教育委員会学校指導室長 (団長)																																																											
引率	水野 豪人	千歳高校 教諭																																																											
引率	小坂 孝男	千歳国際・友好都市交流協会 事務局次長																																																											
引率	高橋 美和	千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記																																																											
引率	松平 朋子	千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記																																																											

■ダイヤモンド高校短期派遣事業

【目 的】	市内在住の高校生がアンカレジ市のダイヤモンド高校を訪問し、現地で授業体験、ホームステイ、市内視察等を通して学校及び市民との友好親善を深めるとともに、国際的視野を広げることを目的としています。																														
【主 催】	千歳国際・友好都市交流協会																														
【訪 問 先】	アメリカ合衆国アラスカ州アンカレジ市ダイヤモンド高校																														
【訪問日程】	2023年1月7日（土）～ 1月14日（土）																														
【参加者】	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>稲垣李音</td> <td>(いながき りお)</td> <td>札幌東高校</td> <td>1年</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>鈴木航太</td> <td>(すずき こうた)</td> <td>北広島高校</td> <td>2年</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>武井静香</td> <td>(たけい しずか)</td> <td>千歳高校</td> <td>1年</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>武井大和</td> <td>(たけい やまと)</td> <td>千歳高校</td> <td>2年</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>中津美那</td> <td>(なかつ みな)</td> <td>千歳高校</td> <td>2年</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>吉田陽奈</td> <td>(よしだ はるな)</td> <td>千歳高校</td> <td>2年</td> </tr> </table>	1	稲垣李音	(いながき りお)	札幌東高校	1年	2	鈴木航太	(すずき こうた)	北広島高校	2年	3	武井静香	(たけい しずか)	千歳高校	1年	4	武井大和	(たけい やまと)	千歳高校	2年	5	中津美那	(なかつ みな)	千歳高校	2年	6	吉田陽奈	(よしだ はるな)	千歳高校	2年
1	稲垣李音	(いながき りお)	札幌東高校	1年																											
2	鈴木航太	(すずき こうた)	北広島高校	2年																											
3	武井静香	(たけい しずか)	千歳高校	1年																											
4	武井大和	(たけい やまと)	千歳高校	2年																											
5	中津美那	(なかつ みな)	千歳高校	2年																											
6	吉田陽奈	(よしだ はるな)	千歳高校	2年																											



【日程表】

	月日	都市	時間	行程
1	2023 1/7 (土)	新千歳空港	10:00	新千歳空港集合 出発式(新千歳空港内会議室)
		羽田空港	12:30	ANA62便(国内線)で羽田空港へ
			14:10	羽田空港到着 ⇒ 出国手続き
			17:35	デルタ航空166便(国際線)にてシアトルへ 【飛行時間:約9時間】
2	1/8 (日)	シアトル	日付変更線	シアトル空港に到着 ⇒ 入国手続き
		アンカレジ	09:45	デルタ航空2471便(国内線)にてアンカレジ空港へ 【飛行時間:約3時間45分】
			11:52	
			14:35	アンカレジ空港到着
		15:30	ミアーズ中学校にて対面式 終了後、各自ホームステイ先へ 《生徒:ホームステイ、引率者:ホテル(6泊)》	
3	1/9 (月)	アンカレジ		終日ホームステイ先で交流 《生徒:ホームステイ/引率者:ホテル泊》
4	1/10 (火)	アンカレジ		ミアーズ中学校にてWelcome Ceremony(中学生) ダイヤモンド高校にてNew Year's Celebration(高校生) 授業体験 《生徒:ホームステイ/引率者:ホテル泊》
5	1/11 (水)	アンカレジ		ダイヤモンド高校、サンドレイク小学校訪問 アンカレジ市長表敬訪問・アンカレジ博物館見学 《生徒:ホームステイ/引率者:ホテル泊》
6	1/12 (木)	アンカレジ		授業体験 ミアーズ中学校にてFarewell Party アンカレジ空港集合 (生徒はホームステイ先から、引率者はホテルから)
7	1/13 (金)	アンカレジ	01:23	デルタ航空1382便(国内線)にてシアトル空港へ 【飛行時間:約3時間30分】
		シアトル	05:55	シアトル到着 ⇒ 出国手続き
			11:15	デルタ航空167便(国際線)にて羽田空港へ 【飛行時間:約10時間】
8	1/14 (土)		日付変更線	
		羽田空港	15:10	羽田空港到着 ⇒ 入国手続き後、国内線へ移動
		新千歳空港	18:00	ANA75便(国内線)にて新千歳空港へ
			19:35	新千歳空港到着 ⇒ 解散



令和4年度ミアーズ中学校・ダイヤモンド高校 短期交流事業に参加して

千歳市教育委員会学校指導室長（団長） 松原 謙 二

令和元年度サンドレイク小学校交流事業から、3年ぶりに交流事業が再開し、1月7日から14日までの6泊8日の日程でミアーズ中学校交流事業・ダイヤモンド高校短期派遣事業に参加させていただきました。4回の勉強会と2回の保護者説明会の事前の準備も行った上で、市内中学生9名と市内在住高校生6名、引率者5名の20名で訪問しましたが、幸いなことに全員で出発し、帰ってくることができました。

ミアーズ中学校、ダイヤモンド高校をはじめ、ホストファミリー、「友の会」の方々、アンカレジ市教育委員会の皆様にとってもあたたかく受け入れていただきました。

アンカレジ市には幼・小・中・高には日本語イマージョンプログラムというのがあり、希望する幼児・児童・生徒が、日本語のみで日本語と社会科を学習することができるクラスがあります。もちろん、他国語のイマージョンプログラムもあります。

お世話になったホストファミリーは、日本語イマージョンプログラムで学んでいる生徒の家庭ばかりです。千歳の生徒は、日本語が話せるホストファミリーの生徒と一緒にいる中で、英語に囲まれた毎日を送ることができて、とても心強かったと思います。また、学校では千歳の生徒に向けた特別授業を準備していただいたり、英語が中心の授業でもホストファミリーの生徒にサポートしていただいたりとおたたかい雰囲気の中で時間を過ごすことができました。

引率者として参加した私も、アンカレジ市の小学校・中学校・高校を視察や交流をさせていただくことで、文化や考え方、教育制度の違いにとっても刺激を受けました。通訳の方を通さず、英語でコミュニケーションを図れたならばもっとお互いを理解し、学ぶことができたらと痛感して帰ってきました。

中学生や高校生ならば尚更だと思います。日本以外の生徒や家庭とふれあい、異文化を身をもって体感したことで、新たなものの見方ができるようになり、今後の人生の中で高校や大学での留学や、もしくは海外の大学への進学、就職も視野に入ってくることを期待したいところです。ネットで瞬時に全世界とつながり、求めれば地球の裏側の人ともコミュニケーションがとれる現代では、国際感覚を研ぎ澄ます必要があります。今回の経験は、間違いなく財産になります。

5月末から30名弱からなるミアーズ中学校の生徒と引率者の方々が千歳を来訪されます。今度は、私たちの番です。初夏を迎える頃、自然豊かな千歳の中で、どのようなお迎えができるのかを考えていきたいと思います。

これからも、アンカレジ市民と千歳市民がお互いに訪問し、交流を進める中で、人と人がつながり、学校と学校のがつながりがより深まり、お互いに高まり合える関係であることを願っています。

この素晴らしい訪問を実現していただきました千歳市、千歳国際・友好都市交流協会、参加生徒の在籍校の皆様にご心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



アンカレジで感じたこと

青葉中学校1年 浅野智久

僕は、「日本のお米のおいしさを伝える」という目標を持ってアンカレジ市にホームステイをしに行きました。まず、日本のお米のおいしさを教えてあげるためにパックご飯と鮭フレーク、ごま塩を持って行きおにぎりを作ることにしました。そして、当日作ってあげると「とてもおいしい」といってくれてとても嬉しかったです。意外だったのが、ごま塩を気に入ってくれたことです。僕は、鮭フレークが人気だと思っていたのでとても驚きました。他にも、フリーズドライの味噌汁と、緑茶もおいしいといってくれて嬉しかったです。他に驚いたことは、日照時間がとても短かったことです。日の出は、10時くらいなのに対して日は日本と同じくらいでした。日本に帰ってきて外を見たらとても眩しく感じました。

後は、ホストファミリーは買い物が好きなので、いろんなお店に連れていってくれました。アラスカには、2店舗しかないショッピングモールに行ってもらってたくさん買い物をしました。そこで驚いたのが、香水などが75%OFFで売られていて日本ではありえない安さだったのが衝撃的でした。

学校生活で驚いたことは、ミアーズ中学校ではみんなホールに集まって、会話しながらランチを食べている事です。また、日本語の授業で僕たちが普段会話している速さのスピードで先生が話していて、それを生徒が理解していることです。日本の英語の授業でも全て英語で会話することはないのでとても驚きました。

他にも、アンカレジの市長表敬の時、千歳市にアンカレジ公園という公園があるので、アンカレジにも千歳公園というのを作る予定と聞いて、千歳とアンカレジ市が姉妹都市なだけあってとても交流に力を入れているなと感じました。

アンカレジ市での、1週間のホームステイはとても短く感じました。また、こういう機会があれば参加してみたいです。



交流事業に参加して

千歳中学校2年 岩本世那

今回の交流事業で印象に残ったことはたくさんありました。特に海外に行ったことで日本の良さを知りました。

アラスカでは朝起きるとまだ暗くて、日の出が10時というところがとても驚きました。そしてあまり晴天がないことに驚きを感じました。

アラスカでとても楽しかったことは、チュービングで山に行ってソリで滑ったことです。他にも沢山の場所に連れて行ってもらって、嬉しかったです。

学校での生活では千歳の学校よりも充実していて、授業も楽しい雰囲気が進んでいました。音楽の授業などは楽器もひとりひとりに当たったりしていて、すごくいいと思いました。1番面白かった授業は日本語の授業で、鏡餅を作ったり、色々なゲームをして沢山の交流を深めることができました。技術の授業は個人でステッカーを作ったりしました。日本の授業ではできないような沢山の授業ができて嬉しかったです。

少し不思議なところは建物の内側のドアがノブではなく押して開けるというところに疑問を持ちました。

アラスカの街はとても広く日本よりも密集していないところが良かったです。他の家を見てもほぼ三角屋根で平屋がなかったです。家の中も防犯対策が充実していて、廊下を通るとセンサーが反応して光ったりドアを開けると機械音声がなったりなどの日本とはかなり違うところも見られました。場所も住宅街から離れて大型店舗が1つだけ孤立していたり大陸ならではの広さがありました。

沢山の人と交流をした中で1番難しかったのは購入時のやり取りでした。偶に値段が表示されないところは口頭でしか言われないので聞き取るのが大変でした。他にも税関手続きのやり取りや、他人との会話も難しかったです。

このように日本とアラスカの違いを照らし合わせると沢山の相違点があり、互いにいいところを見つけられることができました。アラスカに行って慣れないことや驚いたことなどの色々なこともありました。

今回のホストファミリーとの交流はとても楽しかったです。これからも沢山の異文化に対する興味を持って生活したいと思いました。



アンカレジの思い出

勇舞中学校1年 鎌田真奈

交流事業に参加する事が決まってから出発日までは本当に早くあつという間だった。新千歳空港に向かう車の中でずっとアメリカに行くことが、信じられずにいた。出発式が終わって、親から1週間も離れて、ひとりアメリカに行くことがやはりまだ信じられなかった。何時間もかかったはずなのに気が付けばアンカレジに上陸していた。温かく迎えてくれた時には本当に嬉しかった。山並みの美しさに心惹かれた。日本とは違う、透き通った美しさだった。天気にも恵まれた。そして、車が右側通行で運転席も右側で違和感があった。ミアーズ中学校では上靴に履き替えない、お菓子の自動販売機、講堂と体育館が別、とても広い廊下、廊下の壁にロッカーがある、とても大きな図書室など日本との違いがたくさんあった。アンカレジもとても寒い所で、そのためなのか、千歳と同じく玄関が二重になっていた。ケイリンの家に帰って、ケイリンからたくさんのお土産をもらい、どれも素敵なもので嬉しかった。そのお土産の中にはブルーベリーホワイトチョコ、まりものようなものに入った金を貰い、アンカレジではブルーベリー、金がとれることを初めて知った。8日は、アリエスカスキー場に行った。スキー場のトップからアラスカの山々が綺麗に見えた。9日は、初めての学校でたくさんの発見があった。朝の校内放送では、アメリカの国民であることを捧げていて、驚いた。そして、ケイリンと共に行動したのだが、全ての教科が移動教室で、大変だった。昼食は給食ではなく、家から持ってきたランチや、食堂のものを食べた。10日は、いろんな場所を回った。驚いたことがひとつあり、それは高校にATMがあったことだ。11日は、学校に着いて、ケイリンに帽子を脱いでと言われた。日本と同じく、建物の中では帽子を被らないマナーらしい。12日は、ウクレレをしたり、ステッカーを作ったり、絵を描いたり、普段しないことをたくさんしたから、楽しかった。そして、あつという間にお別れのときが来てしまい、ケイリンに別れを告げ、千歳に帰った。ケイリンの家は自分のことは自分でやるというルールで、食器を自分で洗ったり、洗濯を自分でしたりして自立することができたと思う。様々な文化の違いを見つけ、とても有意義な旅だった。



交流事業に参加して

千歳中学校1年 坂上れい

私は1月7日から14日にかけてアメリカのアンカレジ市に行きました。新千歳空港から3便の飛行機を乗り継ぎやっとアンカレジ空港へ到着しました。

空港に着いた私は楽しみと緊張でいっぱいでしたが、ホストファミリーのコートニー家族はカチコチになっている私に、ウェルカムボードとムースのぬいぐるみ、私が飲みなれた水を用意して、緊張をほぐしてくれました。温かく迎え入れてもらえたおかげで気持ちが軽くなって、なんとか英語で自己紹介をすることができました。

空港から出てミアーズ中学校へ向かう車の中で、コートニー家族は映画の中で聞くような綺麗な英語で楽しそうに会話していました。家に帰った後も、食事の最中も、次の日も、私には聞きとることの出来ない英語でとっても楽しそう話していました。会話にはいりたくなあと思いながら時間は経過していきました。どうしたらいいかと考えてスマホで話したい英文を検索して、発音も全く分からないから伝わるか心配だったけど、思い切って話しかけてみました。返事が返ってきて、伝わったことが分かった時は、スマホで調べた英語だったけど、自分の声で発した言葉が伝わったことがすごく嬉しくてしかたがなかったです。顔がニヤけて飛び跳ねたくなって、スキップしたくなるくらいでした。

しばらく伝えたいことはスマホで検索して話かけていたけど、会話をしているうちに勢いで知っている単語だけを並べて話かけたことがありました。すると、意外にも通じたみたいでした。その時におもいました。完璧な英語じゃなくても伝えたいと思う気持ちがあれば伝わるんだなと。それからはスマホで調べることはなく自分の知っている英語で一生懸命気持ちを伝えていきました。

日本語授業を受けたときは驚きました。私達が英語を話すよりもミアーズ中学校の皆さんは日本語が上手だったからです。年賀状作りにも意欲的で、日本の文化についても興味をもってくれていると感じて嬉しかったです。ミアーズ中学校の皆さんの日本語力や外国への関心度、まけていられないなと思いました。

今回初めての海外を経験して、英語は伝えたいと思う気持ちが一番大切だと思いました。国が違う人とも会話したい、楽しくお喋りしたい、この気持ちを忘れずに英語の勉強を頑張っていきたいです。長い文章の英語も喋りたいです。

日本だけでなく、自分とは違った環境で生活している世界の人達の考えていることや思いを知ることに出来る人になりたいです。



今回の交流事業で学んだこと

勇舞中学校1年 対木美玖

私はたくさんの人と交流して積極的にコミュニケーションをとれるようになりたいと思いこの事業に参加しました。

アンカレジでの1週間は毎日とても充実していて、学校もホームステイ先での生活も楽しく過ごすことができました。

学校生活は、授業、ランチタイムの過ごし方など日本とは全く違いました。授業中に自由に立ったり、ガムを噛んでいたりと、すごく自由で最初はとても驚きましたが、とても新鮮でよい経験になりました。日本のことを学ぶ授業では日本の学校のようなルールで過ごしていて、それぞれの文化を大事にして学んでいるのだなと感じました。また、日本の行事や習慣など、日本のことをたくさん勉強してくれていて、とても嬉しかったです。

ホームステイ先での生活では、いろいろなところに連れて行ってくれたり、たくさんの経験ができました。初めは、ホストマザーやホストファザーの英語が聞き取れず不安になりましたが、徐々に聞き取れるようになり、簡単な会話ができるようになりました。聞かなければならないことや伝えなければならない場面もたくさんありました。伝えたい英語が思い浮かばなくても諦めずに、似た意味の単語を使ったりジェスチャーなどを使って会話をすることができました。自分の伝えたいことが伝わった時はとても嬉しかったです。

積極的にコミュニケーションをとる努力をすれば伝えることができる、と自信がつけました。また、自分の意思をしっかりと伝えることが大事だと思いました。

私は今回の事業で、文化の違いを実際に体験でき、アメリカと日本、それぞれの良さを学ぶことができました。また、英語は学校の勉強とばかり思っていたのですが、人とコミュニケーションをとるための大切で楽しいものと感じ、これからの英語の勉強ももっともっと楽しく頑張りたいと思えるようになりました。

次は、ミアーズの生徒を受け入れるのがとても楽しみです。その時は、日本のよさをたくさん伝えたいと思います。



2度目のアンカレジ

富丘中学校2年 中野 姫 翠

私は2度目の訪問でしたが、前回とは違う学校、違うメンバー、違う目標で真新しい雰囲気でも楽しかったです。前回学んだ、「ホストファミリーとはすすんで話す」「したいことははっきり言う」という目標をもって行きました。私がホストファミリーやミアーズ中学校の生徒と話すときの英語よりも向こうの人同士で話している英語の方がずっと速くて驚きましたが、ホストマザーに前回よりも英語がうまくなっていると褒められ、自信がつけました。

ミアーズ中学校ではサンドレイク小学校と違う部分がいくつかありました。一つ目は授業の号令がないことです。ミアーズ中学生はチャイムがなったらすぐに教室を出ていくので驚きました。二つ目はランチタイムの時間です。サンドレイク小学校は全学年同じ空間でランチを食べましたがミアーズ中学校では7年生と8年生でランチの時間が違いました。

次に食文化についてです。私は基本、アンカレジの有名な食べ物をデリバリーして食べたのですが、全て味が濃くて大きかったです。朝ご飯はホストマザーが毎朝作ってくれました。私をホストしてくれたレイは、必ず朝ご飯をベッドの上で寝転がりながら食べていました。しかしホストマザーはそれを見ても一切怒らず笑っているだけでした。日本だったらとても怒られるから、うらやましいなと思いました。

最後にアンカレジの「人」についてです。ミアーズ中学校で出会った人も、ホストファミリーが連れていってくれたお店の人も、いろんな人がフレンドリーで温かいなと感じました。例えば、英語が沢山話せない私にゆっくりと話しかけてくれたり、知らないことを教えてくれたりと、とてもやさしかったです。

またいつか機会があれば、今回よりも長い期間行ったりアラスカに住めたらいいなと思います。



交流事業に参加して

千歳中学校1年 水野陽菜子

私は小学生の頃、サンドレイク小学校との交流が楽しかった記憶があり、この事業のプリントが配られた時、行きたい!!と思いました。そして事業に参加し、アメリカへ行って色々なことを体験して一番楽しかったのは学校です。

ミアーズ中学校に初めて行く日は少しだけ緊張しました。学校に入ると、ホームステイ先の家族のレベッカが色々教えてくれました。アメリカの学校は、日本の学校とは全然違い、スマホ持ち込みOKでイヤフォンをしている人やピアスをしている人がいたり、服装も自由で、たくさんのことにとても驚きましたが、しっかり学校として成立していてすごいと思いました。日本もこうだったらなと思いました。

学校の規模も、日本の学校よりはるかに大きくて迷いそうでした。とてもフレンドリーな人が多くてたくさんの方が話しかけてくれたり、ランチタイムなども日本に比べたらとても自由でした。食べる物も、食べる場所もしっかりと決まっていなかったです。1人1つ鍵付きのロッカーがあり、そこに荷物を入れていました。授業は、すべてが移動教室で、座る場所も床だったり色々な形の椅子だったりしました。そして、日本語イマージョンクラスの人たちの日本語の上手さに驚きました。私ももっと自由に会話ができるくらい英語が話せるようになりたいです。

学校がない日や放課後には色々な場所に行きました。私が行った場所はアラスカ動物園、スケート、ボウリング、ショッピングモール、アイスクリーム屋さん、ハンバーガーショップなどです。とにかく色々な場所に行けてたくさんの思い出ができました。他の家族の人たちとも一緒に行けて、友達もたくさんできました。電話番号を教えてもらったりLINEを交換できたので、これからも交流を続けていきたいです。

1週間という時間は、長そうでとても短かく、最後の日はとても寂しかったです。

5月に日本に来てくれるときが待ち遠しいです。本当に良い時間を過ごせました。



ホストファミリーとの思い出

千歳中学校1年 谷部 瑠星

アンカレジ空港に到着後、ホストファミリーと出会いました。ホストの家に行くまでの道中で、海に沈む夕日を見に行きました。その海は、凍っていて、今までに見たことの無い海でした。僕は、『海って凍るんだ…』と不思議な気持ちになりました。

凍った海に沈む夕日は、感動的な景色でした。車から降りて、その景色を眺めていた時、振り向くと、ムースがいました。30メートルくらい離れた場所でしたが、しっかりと見えました。アラスカに来たんだ!!と実感した瞬間でした。ちなみに、ホストのお母さんは、タイ出身で寒いのが苦手。車の中からその様子を見守ってくれていました。

アラスカ2日目は、ホストファミリーとチュービングに出かけました。僕のホストファミリーだけでなく、ほとんどのホストグループが来ていて楽しい時間になりました。チュービングとは、大人の人が横たわって乗れる程の大きなタイヤに乗って、ちょっと高い丘から勢いよく滑る遊びです。見た目以上にスピードが出るチュービング。大きなタイヤを3つ連結させて、ホストのジャスミンさん、ジャスミンさんの弟ジェイクさんと歓声を上げながら一緒に滑りました。この時間があってことで、ぐっとホストファミリーと仲良くなれました。ちなみにホストのお母さんは、寒さに弱いのでお家にいました。

3日目は、学校が終わった後に、ワカサギ釣りに連れて行ってくれました。場所は、近くの湖。大きな電動ドリルをつかって、厚くはった氷に穴をあけるのですが、僕もちょっとやらせてもらいました。ドゥルルル……!!!と大きな音を立てて、氷を砕くドリルがうるさくて、重くて、大きな振動もあって……大変でした。お父さんは、一瞬でそのドリルをつかって軽々と氷に穴をあけてくれました。ホストのお父さんは、釣りが好き。アラスカに行く前に、メールで釣りをしていることは、知っていたのですが、こんなにスケールがおおきいとは、思ってもみませんでした。気になるワカサギ釣りの結果は……ゼロ! 1匹もつれなかったけど、とても楽しい思い出になりました。



アメリカで感じたこと

富丘中学校2年 山田ひより

今回の交流事業で、アメリカはすごくフリーな国だといちばんに感じました。アメリカは日本と違い、ひとりひとりの個性を大切にしている国だと学校のルールなどを聞いて改めて感じました。学校の中には髪の色がレインボーの子だったりいろんな髪色の子がいて、ピアスを開けていたりして文化もルールも全然違うなと感じました。

次はアメリカに行って勉強になったことです。特に勉強になったことは、1つ目は学校での日本語の授業でアメリカと日本のご飯を食べる時の行儀の違いでした。アメリカでは、左手はひざの上に置いて右手でフォークなどを持ってたべるといのが行儀がいいというふうに言っていたのすごく驚きました。日本では、左手はお茶碗を持って右手で箸を持って食べるのが行儀がいいというふうになるのでアメリカとこんなに変わるものなんだとアメリカの行儀についてもすごく勉強になりました。

次はアメリカの学校についてです。アメリカの学校は科目ごとに教室が変わるのにもかかわらず、休み時間は5分しかないということに驚きました。そのためホストファミリーの子と移動する時は早歩きで移動したりせかされたりされてすごく大変でした。あと、授業中にお菓子を食べていたりゲームで勝ったらお菓子をもらえたりする授業もあったのでびっくりしたけどその分楽しく授業を受けることができたしアメリカの学校についても勉強になりました。

次はアメリカでいちばん楽しかったことです。いちばん楽しかったことは、トランポリンパークに行ったことです。あんなにトランポリンがあるところに行くのが初めてだったのですごく楽しかったです。バスケットをしたり、滑り台を滑ったり、トランポリンで飛びながらじゃんけんをしたりしてすごく楽しめました。

今回アメリカに行って分かったことは、考えていた以上にアメリカとの文化の違いと学校が日本よりかはるかに楽しかったこととどれだけ日本食がおいしいのかが分かりました。

また次も機会があれば高校生になってもこの交流事業に参加したいです。



交流事業に参加して得られたこと

札幌東高校1年 稲垣 李音

私は今回の訪問で、今までになかった考えを持つことが出来るようになりました。日本では当たり前の事がアメリカでは当たり前ではなく、逆も然りなのだと実感しました。住んでいる環境や価値観、言語の異なる人とのコミュニケーションは様々な壁があり、互いを理解しようという気持ちが無ければその壁は越えられないのだと思います。

ダイヤモンド高校で過ごした数日はとても衝撃的な事の連続でした。

第1に、日本の校則の必要性について考えさせられました。校則で禁止されているから我慢している事も何の為に禁止されていて、どうして校則は守らなければならないのかを疑問に思いました。好きな髪の色で好きなメイクをして好きな服を着て学校に行くことができるという自由があるというのは素晴らしいと思います。ダイヤモンド高校の生徒は髪色やメイク、ピアス、服装などで自分の好きなものを自由に表現していたのでとてもかっこよかったです。ルールがある事の大切さも理解できるけれど、ルールにばかり縛られる必要は無いのでは無いかと考えるようになりました。

第2に、相手への伝え方です。日本は直接的な表現より遠回しな表現が多いのでそのままだと伝わらないのだと思いました。直接的な言葉で自分の伝えたい事を伝える事も大切だと実感しました。時には直接的な表現を使用するべきでは無いときもあるけれど、多少は汲み取ってもらうという考え方では伝わらない事もあるのだとおもいます。

このように考え方の大きく異なる人々との交流によって、同じ環境には気付かなかったことに気づくことができるようになりました。ホストファミリーや学校の生徒との交流の時間は短かったですが、とても大きなものを得ることができました。この事業は私たちを大きくしてくれました。



新たな出逢いの地 アンカレジ

北広島高校2年 鈴木航太

アンカレジに着くまでは長い道のりだった。合わせて14時間の長旅だ。ただ上空から見えたアンカレジの景色は絶景だった。日本では見ることのできない見渡す限り続く険しい山々や広大な海を眺めることができた。私たちが空港に到着すると大勢のホストファミリーが私たちを迎えにきてくれた。その光景を見て長旅の疲れも飛んでいった。私のホストファミリーとは話があう話題が多く、絶えず車の中で話をしていった。中でもアメリカと日本の違いについて話すことが面白く、興味深い話ばかりだった。自由に過ごせた1日にはスキーに連れていってもらった。海外でのスキーは私の夢だったので良い経験になった。また、数日間ダイヤモンド高校に通学し普段の高校生活では経験することができないことをたくさん経験することができた。現地の高校はとても大きく、生徒の服装や髪型も自由で大学のようにだった。そこで日本語クラスの授業に参加し日本の書道についてプレゼンテーションをした。プレゼンを聞いてくれていた生徒の中には書道に興味を持ってくれて私に質問をしてくれる人もいて、とても良い交流することができた。

今回の留学を通してたくさんのことを学ぶことができた。1つとしては英語への見方が大きく変わった。当たり前なことだが現地の生活では24時間英語しか聞こえない。今までは何か、英語を身近なものとして捉えられなかったがこの留学を通して英語も日本語と同じ言語の一種である。単なるコミュニケーションを取る手段の1つだと思うようになり、英語学習のハードルが大きく下がったように感じた。またコミュニケーションの面白さを感じることもできた。アメリカでネイティブの人と会話をしているコミュニケーションで大切なことは自分の言葉で話すということだと思った。このことが英語力向上や真のコミュニケーションを取るためには必要なんだと感じた。このアンカレジでの経験は今後生きていく上で大きな助けとなるだろう。

最後に私たちの交流事業のために動いて下さった市役所の方々、その他関係者の方々この度は貴重な経験をさせてくださりありがとうございました。



交流事業に参加して

千歳高校1年 武井 静香

今回の訪問を通して私が驚いたことの一つに、「生徒の自由度の高さ」があります。私達が訪れたダイヤモンド高校では、生徒全員が好きな髪型、服装、メイクをしていて、日本の高校に比べてかなりラフに感じました。そして心なしか、そのほうが生徒の笑顔が多く、ありのままの自分を見せられている気がしたのです。日本人、特に現代の学生は、見た目に酷く敏感になってしまっているな、と感じました。アメリカの個性を大事にする考え方を日本人ももっと参考にしてほしいと思います。ホストファミリーとの生活も日本との違いを感じる場面が多々ありました。あちらでは基本的に早い時間から行動する習慣があるようでした。実際に私が通っている千歳高校とダイヤモンド高校では授業開始時間に1時間の差がありました。他にも、帰宅後にホストファミリーと家族団欒の時間があると思いきや、21時にはみんなすでに寝室にいるというようなこともありました。アラスカの朝は早いので、早寝早起きを心がけているのかなと思いました。

最後に、私が一番嬉しかったことを書きます。それは、アンカレジの人々が自分の想像以上に日本に対して興味を持ってきていたことです。これは、高校でのNew Year's Celebrationや、私達が行ったプレゼンテーション、そしてサンドレイク小学校の見学など、様々な場面で感じました。私はNew Year's Celebrationのとき、ちぎり絵のサポートに回っていたのですが、生徒は初めてにも関わらず、私の助けなど必要ないくらい手早く作業をしていました。聞くと、「日本が好きだから作り方も知っている」というのです。鶴を折れる、日本の曲をよく歌う、という人までいて、日本文化の素晴らしさを再確認しました。それと同時に自分のアンカレジに対しての知識のなさを反省しました。ホストファミリーとの会話を通して実感しましたが、スピーキングスキルも含めて、全体的に勉強不足でした。次回は後悔しないよう、下調べをきちんとしたいと思います。

この1週間はとても充実したものになりました。課題も多く見つかったので、今度はそれを意識して勉強に励み、これからも国際交流の機会があれば是非積極的に参加していきたいです。このような機会を用意してくださった千歳市役所の皆様に心から感謝します。本当にありがとうございました！



ダイヤモンド高校短期派遣事業に参加して

千歳高校2年 武井大和

今回の旅を通して僕が驚いたことや印象に残ったことを中心に書いていこうと思います。まずアラスカについてすぐに感じたのはアメリカ人のフレンドリーさです。日本人なら初対面の人には挨拶から入りますが、ハイタッチとハグを最初に求めてきたのでとても驚きました。最終的には僕のホストファミリーはアメリカ人の中ではシャイな方だったなと感じましたが、それでも日本人に比べるととても友好的で話しやすかったです。

学校については、初日に日本の文化を紹介しつつダイヤモンドの生徒と交流をしたのですが、日本語イマージョンクラスの子はもちろん、それ以外の生徒達も思っていた以上に日本のことを知ってくれていたのでとても嬉しく思いながら会話をしていました。5日目、6日目には準備していたプレゼンテーションの発表もあり、はじめは緊張していましたが徐々に慣れてきて最後の方はリラックスしてプレゼンができました。アンカレジ市長表敬訪問の時には市長と2ショットを撮ってもらったのですが、僕がポーズを要求するとそれにのってくれたのでとても寛大でアメリカの市長らしいなと思いました。後から考えてみるとちょっと失礼だったかなとも思いましたが、滅多に無い機会なので許してほしいです。市長、すみません。

その日の夜はホストファミリーに日本食のお店に連れて行ってもらい、マグロ料理をご馳走になりました。味はもちろん美味しかったのですが、それよりも目の前で料理を作ってくれるという圧巻のパフォーマンスにずっとワクワクしながら食事をしていました。この留学の中でも特に思い出に残った出来事の一つとなりました。

最終日に最も印象に残ったのは学校の6時間目にあったバスケットボールの試合でした。まず授業開始のチャイムが鳴ると同時に授業が始まるのではなく、「バスケットの試合を見に行くぞ」と先生が言い出したことが驚きでした。日本では絶対にありえないことです。そして試合が開始すると凄まじい応援が始まり、僕もテンションが上っていたので詳しくは覚えていないのですが、ダイヤモンドの生徒がダンクシュートを決めていたことだけは強く覚えています。生でダンクシュートを見たのは初めてだったのですごく興奮しました。

楽しかったアラスカ生活も終わり、最後はみんなに見送りをしてもらってアラスカを出ました。帰りの飛行機からはアラスカの夜景と一緒に念願だったオーロラを見ることができました。留学初日からずっと見たいと思っていましたが滞在中は見ることができなかったのが、最後に見ることができて幸せな気持ちで帰ることができました。かなりハードな1週間ではありましたが、それ以上に沢山のものを得られるとても楽しい旅になりました。



視野が広がった 1 週間

千歳高校 2 年 中 津 美 那

私は、これからもっと英語の勉強を頑張るきっかけとなった今回の短期派遣事業に行けてとても感謝しています。なぜなら、またアメリカに行きたい！そしてもっと英語を使って色々な人と話したい！と思ったからです。

私は英語があまり得意ではなく、ホストファミリーとコミュニケーションが取れるかとても不安でした。ですが空港に着いた時ホストマザーとファザーがあたたかいハグで迎え入れてくれて不安が全て飛んでいきました。ホストの話す日本語が流暢であったため安心感がありました。たくさん日本語で話しかけてくれました。ホストマザーと話したい時、通訳や訂正もたくさんしてくれました。とても自分が情けなくなりましたがそのおかげでカジュアルな英語で話せるようになり嬉しかったです。ホストマザーとファザーは翻訳アプリを入れて、沢山コミュニケーションを取ってくれました。本当に短い間だったのに家族の一員として迎え入れてくれてとても嬉しかったです。飼っている犬と猫もフレンドリーでたくさん遊んでくれました。とても可愛かったです。日曜、動物園に連れて行ってくれました。私は動物がとても好きなのでとても嬉しかったです。行く途中にずっと "自分の目" で見たかったムースを 2 頭も見ることができました！しかもそのうちの 1 頭は角が片方ないレアなムースでした！思っていたより大きくて少し怖いと感じたのですが、木を食べている姿はとても可愛かったです。私は食べる事も好きで、アメリカならではの料理をたくさん食べさせてもらいました。全体的にサイズが大きくて驚きました。驚いた事といえば、日本とは違ってみんなオーバーリアクションかつフレンドリーで、お店の店員さんや他のお客さんとオープンな感じでコミュニケーションを取っていて自然と笑みが溢れました。日本人は知らない人と滅多に話さないの、アメリカ人羨ましいなああとカルチャーショックを受けました。

今回たくさんの日本とアメリカの違いを見つけられて私の視野はとても広がりました。1 週間は本当にあっという間でした。アラスカと千歳が姉妹都市である事にとっても感謝です。千歳市の交流協会の皆様のおかげでこんなにも貴重な経験ができた事に感謝しても仕切れないです。本当にありがとうございました！



短期留学で感じたこと

千歳高校2年 吉田陽奈

私は、今回の1週間の短期留学で沢山のことを学ぶことができました。その中でも特に心に残ったことについて書こうと思います。

まず1つ目は、学校生活の中のことで、日本とアメリカの学校のルールの違いです。私の学校の校則は、スマホは校内では電源を切ってカバンの中に入れる、メイクは禁止、授業中の飲食も基本的には禁止です。それに対してダイヤモンド高校ではスマホは授業中以外なら使ってもよい、メイクOK、授業中の飲食も可能、さらに制服がないので自分の好きな服を着ていけるなど、自由度が高い学校でした。日本は集団としての意識を大切にしていると思うので、日本は日本でこのような校則を設定するメリットがありますが、アメリカはアメリカでルールに縛られずに好きな自分でいられるという良さ、そして、生徒ひとりひとりが考えて行動、発言をできていて校則が少ないということは自分自身の自立にも繋がっていると思い、とても良いと思いました。

2つ目はアンカレジ美術館です。ここでは現代のアートや、アンカレジの歴史、オーロラについてなど色々なことを見たり聞いたり、触ったりして学ぶことができました。中には、戦争についてのブースがあり、その中に日本語の、日本に向けて作ったチラシのようなものがあり興味を持って調べてみたいと思いました。また、アラスカの先住民族についてのブースもありました。当時の人が着ていた服や、住居、生き物などについて見ることができました。そして、私のホストマザーは先住民族のハーフだったので家で先住民族の人がやっていたヨーヨーのような遊びを教えてもらい、一緒にやりましたがすごく難しかったです。もっと深くアラスカの先住民族について学んでみたいくなりました。

最後に、今回の短期留学全体を通して英語のリスニング力がアラスカに行く前よりも向上したと思います。最初は聞き取るのが難しかったホストファミリーの英語も、最後には聞き取れるようになっていました。これらのことや他にも楽しいことがたくさんあり、有意義で沢山の忘れられない思い出ができた1週間でした。本当にアラスカに行くことができよかったし、またいつかアラスカの友達に会いに行きたいと思います。



国際交流事業に携わって

千歳高校 教諭 水野 豪 人

令和4年度ミアーズ中学校交流事業ならびにダイヤモンド高校短期派遣事業に引率として関わらせていただき、光栄に思います。特にダイヤモンド高校短期派遣に関しては、今年が記念すべき初年度であり、私の所属する北海道千歳高校からも4名が参加できたことは、この上ない喜びでした。まずは、長年にわたる千歳市とアラスカ・アンカレジ市の姉妹都市交流に携わってこられた市の職員の方々ならびに両国の教職員の先生方と、アンカレジ友の会の方々の尽力に多大な感謝を申し上げたいです。今回の訪問においても、アンカレジの方々に連日にわたる盛大な歓待をしていただき、感謝の思いでいっぱいです。この事業が、多くの人々の友情と努力でつながれてきたことを実感いたしました。

この事業において素晴らしい点は、参加生徒全員がホームステイをできるという点です。今回参加した中学生9名と高校生6名は、ホストと時間を共にし、アラスカの様々な習慣や文化、美しい自然に触れ、みな充実した日々を過ごしていたように思います。渡航前には、自分の思いや意見を口にしない生徒もいて心配していましたが、最後の方には笑顔が多くみられ、ホストファミリーとの時間が彼らにとってどれほどかけがえのない貴重かつ充実したものであったかを感じました。フェアウェルパーティの際、ホストの方の一人が「家族の一員のように思っている。また来てほしい」とおっしゃっていました。目頭が熱くなりました。どうしてこれほどまでに、私たちによくしてくれるのだろうと思うほどに、愛情を注いでいただいたことに驚きを隠せません。生徒たち皆が、帰国前に「帰りたいくない」といっていたところを見ると、彼らにとってアンカレジ市は第二の故郷のような場所になったと確信していますし、これこそが姉妹都市交流の素晴らしさだと実感しています。

ダイヤモンド高校では、生徒たち自身が日本の文化を現地生徒にプレゼンテーションする機会にも恵まれました。普段、日本人に対してすることはあっても、英語を母国語とする生徒への英語でのプレゼンテーションの経験は彼らにとって大きなものであったはずです。ダイヤモンドの生徒は、積極的に質問もしてくれ、彼らも手ごたえを感じたはずです。「自分の英語はまだまだだ」と感じた生徒もいて、これから先の英語学習につながる貴重な経験になったことは間違いありません。

自分の国以外の国に友達がいることは大変尊いことです。また、日本の常識がかならずしも世界の常識とは限らないことを、目で見て知っていることは、彼らの考えをより成熟した深いものにし、人として成長させてくれると思います。こんな交流が、両都市で継続されていることは奇跡ですし、この素晴らしい交流を今後も続けていきたいと思った次第です。早速今年8月からくる予定のダイヤモンドからの留学生をはじめとして、少しでも多くの若者にこの交流の担い手になってもらえるよう、私も微力ながら力を出させてあげたいと思います。



アンカレジ市訪問を振り返って

千歳国際・友好都市交流協会 事務局次長 小坂 孝 男

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外訪問事業は中断していましたが、令和4年度は、3年振りに事業が再開し、10月に千歳アイヌ文化国際交流事業、1月にミアーズ中学校交流事業、ダイヤモンド高校短期派遣事業、2月に青年海外派遣研修と4つの事業で姉妹都市アンカレジ市を訪問しました。

アンカレジ市とはコロナ禍においてもzoomでの交流や手紙交換など、これまでの絆が途絶えることがないよう交流を続けてきました。

今回、ミアーズ中学校交流事業として9名の中学生とダイヤモンド高校短期派遣事業として6名の高校生が参加しました。

訪問にあたっては、事前にホストファミリーと手紙交換を行い、仲が深まった状態で訪問することができたので、滞在中は、有意義に過ごすことが出来たと思います。

また、コロナ禍での訪問となりましたが、通常の準備に加え、コロナ対応もしっかり準備をして、全員で訪問し、多くの成果を上げ一緒に帰ってくることができ、事務局として責任を果たせて良かったです。

参加した生徒は、千歳市についても1度見つめ直すことができたと思います。この経験をきっかけに、英語や他の学問をさらにしっかり学び、それぞれの立場で千歳市とアンカレジ市の架け橋になっていただくことを期待しています。

また、市民報告会では、成長した子供たちを見て、この事業は継続していかなければならないと強く感じました。

私は今回で、アンカレジ市への訪問は4回目となりましたが、毎回、温かいおもてなしをしていただき、心より感謝申し上げます。5月下旬にミアーズ中学校の皆さんが来訪した際には、私たちにできる精一杯のおもてなしをしたいと思います。

令和6年度は、アンカレジ市と姉妹都市提携55周年記念事業があり、市民訪問団を結成し、多くの市民の方がアンカレジ市を訪問できるよう準備を進めていきたいと思っています。

おわりに、今回、アンカレジ市を訪問するにあたり、ご理解とご協力をいただきましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、ホストファミリー、アンカレジの皆さまに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



やっとの思いで実施できた訪問交流事業

千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記 高橋 美和

この2年間、新型コロナウイルスの感染拡大によりリアルでの交流ができませんでした。今年度も、本当に実施できるのか全く不透明な中での募集になりました。毎日流れる「本日の感染者は〇〇人。死者は〇〇人です」のニュースに一喜一憂し、各国の入国条件が緩和されるにつれ変わる入国方法に翻弄され、事務局として常に新しい情報を収集し、また万が一のことを念頭に置いて準備を進めなければなりませんでした。実施することができて本当に良かったです。また、出発前にはコロナウィルスに感染し勉強会に出られない生徒も何人かおり、全員が参加できた勉強会は一度もありませんでした。私自身も感染しました。そんなことを考えると、誰一人行けなくなる生徒も、予定通りに帰国できなくなる生徒も出ず、全員で訪問し帰国できたことに安堵しています。

アンカレジ空港に着くと、長旅の疲れを一掃させるくらい盛大な出迎えを受けました。そして、ホストファミリーの方々がメッセージボードを持ちながら家族全員で出迎えに来てくれていました。あたかも、自分の家族が帰ってきたかのような迎え入れ風景に、とても感動し涙が溢れそうになりました。生徒たちはその心温まる迎え入れに一気に緊張の糸が緩んだことと思います。

ミアーズ中学校においても、教育長をはじめ教育委員会の方々が学校に来て下さり、全校生徒による歓迎集會が行われ熱烈な歓迎を受けました。その状況から、とても有意義な交流が行われていることを実感し、また、そんな重要な事業に携わらせて頂けていることに喜びを感じました。それと同時に、小学生から高校生に至るまで誰もがアンカレジに行けるチャンスがある千歳子ども達がうらやましくもなりました。このように事業を継続できるのもミアーズ中学校・ダイヤモンド高校の先生方の尽力のおかげでもあります。授業をしながらの受け入れ準備は本当に大変だと思います。生徒だけでなく、引率者に対しても日々心温まるおもてなしをしてくださり、心から感謝しています。

アメリカでは日本とは違い、生徒がその都度担当教科の先生の教室に移動します。友達と仲良く移動しながら廊下を歩く姿、そして授業を受ける生徒たちの目はとても生き活きとキラキラしていて、ちょっぴり大人っぽく見えました。

今回の訪問が、参加した皆さんにとって素晴らしい体験となり、グローバルな視野で物事を見る目が少しでも養われたことを期待しています。



アンカレジ市訪問事業所感

千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記 松平朋子

今回当事業の引率をさせていただき、自分が初めて海外を訪れた日のことを思い返していた。当時の私もみなさんと同じ中学生で、地元の国際交流事業に参加し、オーストラリアにある姉妹都市を訪問したのだった。この経験は職業選択を初め私の人生に大きな影響を与えることになった。

アンカレジ市では多くの人々が幼稚園から大学まで日本語イマージョンクラスで日本語を学習しており、日本語や日本の文化を好きになってもらえることがとても嬉しかった。また、学校内はもちろん街中でも市民のみなさんが気さくに優しく接してくださり、しばしば海外で経験するようなアジア人差別を受けることは全くなかった。アンカレジ市は先住民や、数多くの人種、他国の文化や言語を学んでいる人々が共生しているまちであり、アンカレジ市民の、他者の多様性を受け入れて生活している姿に感銘を受けた。

参加者のみなさんは、慣れない環境下でも今自分にできることに必死に挑戦していた。初めは戸惑っている様子もあったが、すぐにホスト生徒や仲間たちと打ち解け仲良く生活しており、子どもたちの順応性やコミュニケーション能力には感心するばかりであった。

帰りのシアトル空港のコーヒーショップにおいて、注文したかった商品に「売切れ」と表示されていたにも関わらず、自分で確認してみたいとスタッフに商品の有無を確認していた生徒がおり、簡単には諦めないチャレンジ精神と、英語を自分の目的を果たすためのツールとして難なく使用する姿がとても印象的で成長を見せてもらった。

アンカレジ市を訪問したみなさんにとって、今回の経験が今後の人生に大きく影響を与えてくれるに違いない。英語学習へのモチベーションはもちろんであるが、アメリカやアラスカの素晴らしさを学ぶことができたと同時に、日本の良いところにもきっと気づくことができたのではないかと思う。また、仲間との友情であったり、日本人を含めて他者と円滑なコミュニケーションをとる工夫であったり、英語や海外の文化以外にも学ぶことがたくさんあったことと思う。参加生徒には、今後も多角的な視点を持ち続け、今回経験したことをこれからの自分の人生に活かしていただければと思う。最後に、お世話になったアンカレジ市の皆さま、千歳国際・友好都市交流協会会員の皆さま、当事業にご理解ご協力いただいたすべてのの方々に感謝を申し上げます。当事業にご尽力いただきありがとうございました。

第1回説明会

2022年9月28日（水）18時30分から、千歳市総合福祉センター4階402号室で第1回説明会を開催しました。他の参加者と初めて会うので、参加生徒の皆さんに一人ずつ自己紹介をしていただきました。



松原団長の挨拶



説明会の様子

第1回勉強会

2022年10月14日（金）18時半から千歳市役所第2庁舎会議室1・2で、第1回勉強会を開催しました。中学生はアメリカ入国時に使う英会話の練習や、ペアでの英会話練習、ミアーズ中学校訪問の目的確認などを確認しました。高校生はダイヤモンド高校で発表する内容の担当決めを行いました。



中学生の英会話レッスン



高校生はダイヤモンド高校で何を発表するか話し合っています。



第2回勉強会

2022年11月1日（火）18時半から千歳市総合福祉センター4階402号室で第2回勉強会を実施しました。英会話レッスンに加え、ホームステイをする上での注意点等を学びました。高校生が入国審査官になりきって中学生の入国審査の練習相手をしたり、和気あいあいとした雰囲気の中で勉強会を行いました。



ペアになって英会話練習



入国審査の練習①



入国審査の練習②

第2回説明会・第3回勉強会

2022年11月18日（金）18時半から千歳市総合福祉センター4階402号室で第2回説明会・第3回勉強会を行いました。出発まで、残り約2か月を切りました。入国に関する最終の事務手続きや、中学生はミアーズ中学校で発表する千歳の中学校生活紹介の練習を行い、高校生は発表内容の確認をおこないました。



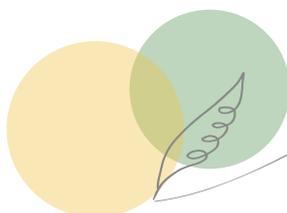
中学生は千歳の中学校生活紹介の練習を行っています。



高校生はみんなで意見を出し合いながら発表内容を確認しています。

第4回勉強会

2022年12月16日（金）18時半から、千歳市役所第2庁舎会議室1・2で最後の勉強会を行いました。勉強会では言いたいことを相手に伝える練習のために、ジェスチャーゲーム・単語連想ゲームを行い、その後千歳の中学校生活の紹介の練習を実施しました。



出発前表敬訪問

2022年12月26日（月）16時30分から、千歳市役所第2庁舎2階会議室3・4で出発前の千歳市長表敬訪問を行いました。



松原団長のあいさつ

感謝の気持ちをもって、千歳市の代表として行ってきます！



ミアーズ中学校交流事業代表挨拶は
勇舞中学校1年 鎌田眞奈さん



ダイヤモンド高校短期派遣事業代表挨拶は
千歳高校2年 武井大和さん

なかなか出来る経験ではないので、現地でいっぱい吸収して学んできたいです！



山口幸太郎市長から
激励のお言葉をいただきました。



千歳市長からアンカレジ市長への
手紙を預かりました。



訪問団全員の集合写真

2023年1月7日（土）～アンカレジ訪問～1日目

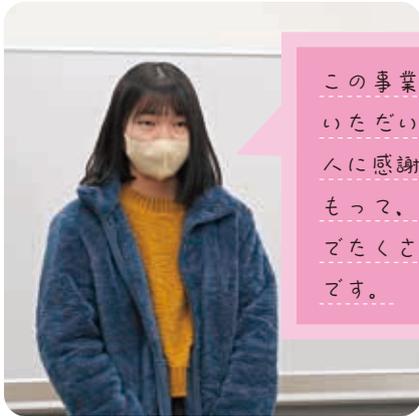
10時15分から、新千歳空港国内線ターミナルビル会議室1Bで出発式を行いました。
たくさんの方々に見送られながら、いよいよアンカレジへ向けて出発！



千田観光スポーツ部長から、激励のお言葉をいただきました。

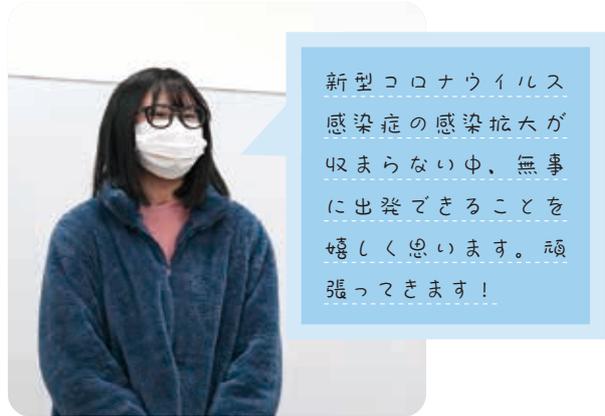


松原団長のあいさつ



この事業に携わって
いただいたすべての
人に感謝の気持ちをも
って、アンカレジで
たくさん学びたい
です。

中学生 対木さんの代表あいさつ



新型コロナウイルス
感染症の感染拡大が
収まらない中、無事
に出発できることを
嬉しく思います。頑
張ってきます！

高校生 吉田さんの代表あいさつ



ユニフォーム姿で記念撮影



行ってきます！！



出発前 ワクワクです！



12時30分発ANA62便で羽田空港へ



羽田空港にて手続き中



チェックイン終了。いよいよ出国。



17時35分発
デルタ航空166便にていざシアトルへ！



機内食Ⅱは2回。



食後のデザートタイム



シアトル・タコマ国際空港で乗り継ぎ



アンカレジに到着し、自分の荷物を待ってます。



アンカレジ空港到着！みんなでムースポーズ♪



ミアーズ中学校・ダイヤモンド高校の皆さんが盛大にお出迎えをしてくれました。



千歳訪問団の名前を書いた、手作りボード



アンカレジ空港からミアーズ中学校図書室に移動し Welcomeセレモニー



ミアーズ中学校
バックマン校長先生のあいさつ



ダイヤモンド高校
ティナ校長先生のあいさつ



松原団長のあいさつ

Nice to meet you
everyone!
I'm very happy to meet
you all!



山田さんのあいさつ

I'm excited to spend time
with you!



稲垣さんのあいさつ



プレゼントをいただきました。



全員で集合写真♪

2023年1月8日（日）～アンカレジ訪問～2日目

中学生のHOMESTAYの様子



TOMOHISA



SENA



MANA



REI



MIKU



RYUSEI



HINAKO



HIYORI



HISUI

高校生のHOMESTAYの様子

RIO



KOTA



SHIZUKA



YAMATO



MINA



HARUNA



2023年1月9日（月）～アンカレジ訪問～3日目



登校初日、ミアーズ中学校では全校集会を開いて、私たちを歓迎してくださいました。



練習の成果を存分に発揮しました！
みなさん立派に英語で発表していました♪

中学生は千歳の学校生活の紹介を行いました。



アンカレジ市教育長と松原団長



I would like to have fun and make many friends!

谷部さんのあいさつ



さっそく、現地の生徒と一緒に授業を受けました

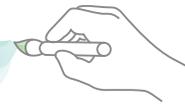


ホスト生徒と教室を移動



みんなすっかりミアーズ中学校の一員です。

ダイヤモンド高校では、New Year's Celebrationを実施！
千歳の高校生たちがお手伝いをしました。





今日は中高生と一緒に行動します。まずはダイヤモンド高校に集合しました。

ダイヤモンド高校の見学



グループに分かれて
ダイヤモンド高校を見学





スクールバスでサンドレイク小学校へ移動

サンドレイク小学校の見学



ランチタイム



ランチは老舗のハンバーガーショップで食べました



アンカレジ市長表敬訪問



ランチのあとは、アンカレジ市長表敬訪問



デイブ・ブロンソン アンカレジ市長



松原団長のあいさつ



高校生 武井さんのあいさつ



みんなで記念撮影

アンカレジミュージアム



市長表敬訪問のあとは、
アンカレジミュージアムへ行きました



シャボン玉で全身を包みます



ALASKA!!

2023年1月11日（水）～アンカレジ訪問～5日目



中学生は、日本語クラスでお餅を作りました



高校生は、プレゼンをしました。



みんな興味深く聞いていました



ダイヤモンドポーズです

2023年1月12日（木）・13日（金）～アンカレジ訪問～6日目・7日目



中学生は音楽の授業でウクレレを習いました



美術の授業です



水野先生の特別授業
福笑いをしています。



松原団長の特別授業
理科の勉強をしています。





高校生は、今日もプレゼンをしました



みんなでランチタイム



夜はお別れパーティーです。



高校生 鈴木さんのあいさつ



中学生 中野さんのあいさつ



第2のふるさとなができましたね

深夜にもかかわらずたくさんの方々がお見送りに空港まで来てくれました。



次は千歳で会いましょう!!



シアトル タコマ国際空港に到着



シャトルトレインに乗って、ターミナル間を移動。



間もなく、羽田空港行きの飛行機へ搭乗



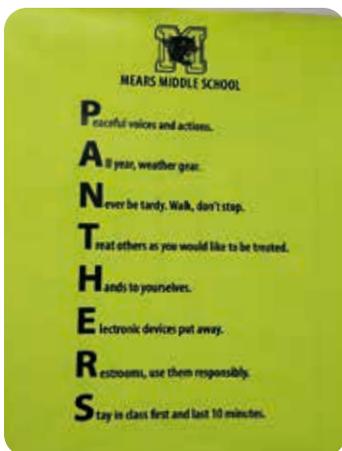
帰りの機内食。早く和食が食べたいです。



無事、新千歳空港に到着。
松原団長から、最後のメッセージです。



みなさん、お疲れさまでした♪



お世話になった『友の会』の
ボードメンバーの方々



2. 青年海外派遣研修

【目的】	市内在住の大学生・短期大学生を姉妹都市アンカレジ市に派遣し、サンドレイク小学校・ミアーズ中学校・ダイヤモンド高校（日本語イマージョンプログラム実施校）でのインターンシップ体験、アラスカ大学アンカレジ校での授業体験、ホームステイなど、交流プログラムを実施し、教育制度、慣習の違いなどを学習することで国際的視野を広げるとともに、自分たちの生活や価値観を見つめ直す契機とすることを目的とする。
【主催】	千歳国際・友好都市交流協会
【訪問先】	アメリカ合衆国アラスカ州アンカレジ市 サンドレイク小学校・ミアーズ中学校・ダイヤモンド高校 アラスカ大学アンカレジ校
【訪問日程】	2023年2月6日（月）～ 2月13日（月）
【参加者】	<p>1 荒井美輝（あらい みき） 北星学園大学 文学部英文科4年</p> <p>2 佐藤怜奈（さとう れいな） 北海道教育大学函館校 地域教育学部4年</p> <p>3 志賀成珠（しが なるみ） 北海学園大学 英米文化学科2年</p> <p>4 嶋宮咲貴（しまみや さき） 國學院短期大学 総合教育学科1年</p> <p>5 西村瑞穂（にしむら みずほ） 北海学園大学 法学部2部1年</p> <p>6 松岡基（まつおか もとき） 酪農学園大学 農食環境学群食と健康学類2年</p> <p>7 溝渕世朗（みぞぶち よお） 公立千歳科学技術大学 情報システム工学科3年</p> <p>8 柳原眞子（やなぎはら まこ） 公立千歳科学技術大学 理工学部3年</p> <p>9 山本由希（やまもと ゆき） 酪農学園大学 食と健康学類管理栄養士コース4年</p> <p>-----</p> <p>団長 川瀬正明（かわせ まさあき） 千歳国際・友好都市交流協会 会長</p> <p>引率 古島知明（ふるしま ともあき） 千歳国際・友好都市交流協会 事務局長</p> <p>引率 星野泰宏（ほしの やすひろ） 千歳市観光スポーツ部交流推進課交流推進係長</p> <p>引率 高橋美和（たかはし みわ） 千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記</p>

【日程表】

	月日	都市	時間	行程
1	2023 2/6 (月)	新千歳空港	10:30	出発式 新千歳空港内会議室
			12:55	日本航空510便（国内線）で羽田空港へ
		羽田空港	14:35	羽田空港到着
			15:25	リムジンバスで成田空港へ
		成田空港		成田空港到着後出国手続き
			18:30	日本航空068便（国際線）でシアトルへ 【飛行時間：9時間】
		シアトル	日付変更線	10:30
		15:40	アラスカ航空275便（国内線）でアンカレジ空港へ 【飛行時間：3時間45分】	
		アンカレジ	18:28	アンカレジ空港到着 ⇒ 各ホームステイ先へ 《学生：ホームステイ、引率者：ホテル（6泊）》
2	2/7 (火)	アンカレジ		インターン体験 《学生：ホームステイ／引率者：ホテル泊》
3	2/8 (水)	アンカレジ		アラスカ大学訪問・授業体験 《学生：ホームステイ／引率者：ホテル泊》
4	2/9 (木)	アンカレジ		インターン体験 《学生：ホームステイ／引率者：ホテル泊》
5	2/10 (金)	アンカレジ		インターン体験 《学生：ホームステイ／引率者：ホテル泊》
6	2/11 (土)	アンカレジ		終日ホームステイ先で交流 《学生：ホームステイ／引率者：ホテル泊》
7	2/12 (日)	アンカレジ	03:00	アンカレジ空港集合（学生はホームステイ先から）
			05:00	アラスカ航空188便（国内線）にてシアトル空港へ 【飛行時間：3時間30分】
		シアトル	09:28	シアトル到着 ⇒ 出国手続き
			12:30	日本航空067便（国際線）にて成田空港へ 【飛行時間：10時間40分】
			日付変更線	
8	2/13 (月)	成田空港	16:00	成田空港到着 ⇒ 入国手続き
			17:20	リムジンバスで羽田空港へ移動
		羽田空港	19:40	日本航空529便（国内線）にて新千歳空港へ
		新千歳空港	21:15	新千歳空港到着 ⇒ 解散



青年海外派遣研修事業 報告

千歳国際・友好都市交流協会 会長 川瀬 正明

2月6日から13日までの期間、大学生9人の団員（+団長、事務局3人）からなる青年海外派遣研修団としてアンカレジ市を訪問し、日本語イマージョン実施校におけるインターンシップ体験、アラスカ大学アンカレジ校での日本語授業体験、さらにはホームステイ体験を行った。

以下、項目ごとに感想を含めた報告としたい。

1. 日本語イマージョン校におけるインターンシップ体験

学生は事前に訪問先の教員と打ち合わせを行い準備していったが、事前の打ち合わせに十分な時間がとれなかったこと（相手の教員が多忙だったことにもよる）から、授業のインターンシップという観点からは準備不足も一部にあった。しかしながら、日本の学校との多くの相違点を体験できたことは学生達にとって貴重な経験になったに違いないし、イマージョンクラスの子供達にとっても若い学生と交流できた点は大いにプラスになったと考えられる。

2. アラスカ大学の授業体験

原田先生の日本語クラスの授業を体験した。最上位（と考えられる）クラスでは黒澤明監督の映画「生きがい」を鑑賞させて、「生きがい」について議論するという授業スタイルだったが、母国語でも難しいテーマであり、学生が議論している間に同行した事務局も原田先生と貴重な意見交換をすることができた。

3. ホームステイ体験

ホームステイ先の様子を直接は見てないが、お弁当を作ってもらったり、送迎（特に最後の出発日は真夜中の時間帯に）してもらったり、大変なお世話をいただいた。出発時の空港見送りではホストファミリーと抱き合っただけ別れを惜しむ姿が見られ、アンカレジの家庭における交流体験が学生達にとって極めて意義あるものであったことを実感できた。

4. 全体を通して

日本語イマージョンクラスの多くに、日本語の書籍が配置されていたが、その書籍が50年以上前のものがあるなど、子度達とのマッチングがとれていないものも散見された。アンカレジで日本の書籍をそろえるのは大変なことと考えられるので、市民や図書館の不用になった書籍等を元に、「千歳文庫？」の寄付も考えられるのではないだろうか。

今回の研修では、訪問先の日本語担当の先生方、特にコーディネーター役の神村先生、山本先生には大変お世話になった。また前述の通り、ホームステイ先で親身な対応をいただいたことに言葉では尽くしきれない感謝を感じた。このような交流体験が国際友好の最も強固な基盤になると考えられ、国際友好都市交流のミッションはしっかり果たせたと考えている。



日常

北星学園大学4年 荒井美輝

2月6日、私は初めてアメリカに渡りました。今回参加した青年海外派遣研修では、日本語イマージョンクラスでのインターンシップやホームステイを体験しました。大学での受講体験もあったのですが、体調を崩してしまい参加できなかったことは残念でした。

アンカレジに到着した次の日から、サンドレイク小学校の5年生のクラスでインターンシップが始まりました。出発前は、イマージョンクラスといっても、日本語だけではなく英語も頻繁に使われているのだろうと想像していました。しかし実際は、教室内で使用する言語は日本語のみで、授業の進め方や様子も含め、まるで日本でインターンシップを体験しているように感じました。アメリカでは、イマージョンクラスを設けている学校が多いと知り、ホストファミリーに“なぜ日本語のイマージョンクラスを選んだのか”を尋ねました。理由はとても単純で、“近所の学校にたまたま日本語のイマージョンクラスがあり、学んで損はないと思ったから”“日本語以外の言語でもイマージョンクラスを選択した”と答えました。この話を聞いたとき、日本と比べてアメリカでは、幼少期から第2言語を学べる環境が整っており、気軽に選択できるのだと実感しました。

放課後には、ショッピングをしたり、レストランでご飯を食べたりしました。コストコで買い物をしていると、ホストファザーとお客さんが不意に、おすすめの商品紹介や近況報告を始めるので、フレンドリーすぎる国民性にとっても驚きました。またレストランでも店員さんとの話が盛り上がると、特大サービスをしてくれるなど、日本より自由度の高い社会に刺激を受けました。

想像よりも短く感じたアメリカでの生活でしたが、日本とは異なる文化を肌で感じられる貴重な経験でした。新たなものの見方を学び、改めて慣れ親しんだ環境の良さにも気づきました。今後も多様性を考慮した思考力を育てていこうと考えます。



アラスカでの学び

北海道教育大学函館校4年 佐藤 怜奈

私は、学生最後の春休みに何かを頑張ってから卒業したいと思い、今回の研修に参加しました。また春から小学校の教師になるため、苦手な英語を勉強するきっかけにしたいと考えていました。

今回の研修で一番楽しみにしていたことは、アメリカの小学校を見学し、授業をすることでした。教育実習などで日本の小学校の様子を見ていたので、アメリカと日本の小学校の様相が大きく異なっていることに驚きました。日本の学校に比べて、授業中の活動や校則に関する自由度が高く、児童達が伸び伸びと楽しそうに生活していると感じました。私が行った授業でも、児童達が積極的に学習に取り組む様子が見られ、子ども達の好奇心はこのようなことが望ましいと感じ、教師としての私の目標の一つとなりました。

ホームステイの経験は初めてだったので、英語でコミュニケーションを取ることができるのかとても不安でした。しかし、ホストファミリーが空港でとても温かく迎え入れてくれて、これから始まる生活が少し楽しみになりました。研修に参加した目的を果たすため、私はできる限りたくさん話すように心がけました。私が考えながらゆっくり話していると、ホストファミリーは私が話し終えるのをずっと待っていてくれました。私はそれがすごく嬉しく、安心して英語を話すことができました。

一緒に過ごしてくれたAddisonさんは、私のことを姉のように慕ってくれました。英語を話せるのか不安だったことを忘れ、毎日色々な話をしました。日本食を作るととても美味しく食べてくれて、けん玉や折り紙を教えるとできるまで挑戦していました。

5日間という限られた時間でしたが、たくさんの経験をさせて頂きました。特に、アメリカの小学校の様子を見ることができたこと、実際に授業をさせて頂いたことは、意味のある貴重な経験となりました。また、コミュニケーションが伝わった時の喜びや英語を話すことの楽しさを知ることができました。この研修での経験を生かし、これからも学び続けたいと思います。



アラスカのホストファミリー

北海学園大学2年 志賀成珠

私は、日本と違う国を見てみたい、実際に現地の人と交流してみたいという想いがあり、今回参加させていただくことを決めました。そのため、行くまでの間、少し不安な気持ちもありましたが、早くアラスカに行きたいという気持ちのほうが強かったです。

アンカレジ国際空港に到着して、ホストファミリーに初めて会った時は、とても緊張しましたが、現地の人々が温かく迎えてくれたおかげで、すぐに慣れることができました。私のホストファミリーは、父、母、小学生の女の子2人の4人家族でした。ホストマザーとホストファザーはとてもフレンドリーで、こちらの意思も尊重して接してくれる優しい方々でした。丁寧でわかりやすい英語で話してくれたり、私が英語を聞き取れないときは、ジェスチャーを使って何度も説明してくれました。ホストシスターは、幼稚園からイマージョンクラスで日本語を勉強しているので、日本語と英語の両方を使ってコミュニケーションをとっていました。一緒に料理をしたり、ゲームをしているうちにだんだん仲が深まっていきました。ホストファミリーとの一番の思い出は、一緒にカレーを作ったことです。ホストマザーに日本の料理を教えてほしいと言われたので、日本のカレーを作ることにしました。前日に、家族みんなでスーパーに買い出しに行きました。アメリカのスーパーは、日本では見たことのない商品がたくさんあってすごく新鮮でした。料理をするとき、ホストシスターが率先して手伝ってくれてうれしかったです。料理が食卓に並べられたとき、みんなが「ありがとう」と言ってくれてとても温かい気持ちになりました。私も、普段から些細なことでも「ありがとう」と言うのを忘れないで生活しようと思いました。

最後に、今回青年海外派遣研修に参加することができて本当に良かったと思っています。これからも、やりたいと思ったことは、なんでも挑戦していきたいです。



また訪れたい地・アンカレジ

國學院大學北海道短期大学部 1年 嶋宮 咲貴

「アメリカに一回行ってみたら世界が変わる。価値観が変わる。なにより、英語力が伸びる。」

これは、私の恩師が言っていた言葉である。この言葉は当時17歳であった私の心に強く印象づけた。当時は新型コロナの感染症が流行りだした時期であったためアメリカをはじめとする海外への渡航を断念していたが、感染症が流行りだして3年が過ぎようとしている今年度、千歳市の姉妹都市であるアメリカアンカレジ市への派遣事業を大学生・短大生を対象に開催するという情報を小耳に挟み、参加を申し込んだ。決定通知を受け取った時は長年夢見たアメリカへ行けることに何度も飛ぶくらい喜んだ。

アンカレジでは私はダイヤモンド高校で受け入れていただくことになり、計3日間ホストファミリーと共に通学した。

小学校からイマージョン・プログラムの中で学び、9年以上も日本語と慣れ親しんでいる高校生との会話は表現を少し変えるなどの工夫は必要だったけれども、コミュニケーションや意思疎通を図る、という面では十分会話が可能であった。なかでもホストファミリーの子は日本語の勉強がとても大好きで、流暢な日本語を話していた。感染症がなければ、6年生の時に来日する予定だったそうだ。

初めてのアメリカアンカレジでの滞在は驚きと発見の連続であった。長年日本に住み、「これが常識だ」と思っていたことがほとんど通用しない。車の進行方向は日本と逆であるし、レストランや宅配で食べ物を頼むと、飲み物は日本と同じくらいのサイズなのに、1人で食べることのできない量の料理が出てくる。日本でも道路沿いに動物が出没するのは日常茶飯事であるが、世界最大級のヘラジカ、「moose」が出てくる等。

恩師が言っていた通り、初めてアメリカアンカレジ市に行ってみて、私の中で世界が変わった。もちろん悪い意味ではなく良い意味で、だ。ただ1週間という少ない滞在期間であったことが少し残念である。

いつかまた、アンカレジを訪れたい。



新たな知見

北海学園大学1年 西村 瑞穂

私にとっては今回が初の渡米であり、楽しい気持ちとともに不安な気持ちで旅立ちました。留学先で、話すことができず交流が出来なかった等の失敗談は聞いた事だったので、それだけは気をつけようと心に留めていました。ホストファミリーとは、渡米前からLINEで連絡を取り合い、様々なできごとや自分の話などをしていたため、事前に打ち解けられていました。ですが、いざ会ってみると、やはり緊張してしまいました。次から気をつけようと反省しサンドレイク小学校へ訪問しました。

サンドレイク小学校では、日本とはかけ離れた授業風景に圧倒されましたが、文化の違いが一番見られた瞬間だったので、とても面白く感じました。私は14年間という、子供たちとは2倍も多い時間を英語学習に割いてきたはずなのに自分の英語レベルの低さを感じ、教育の違いを感じました。また、『教室に入ったらここは日本』というルールもとてもユニークなものだなと感じました。授業はもちろん注意をする時も日本語であるため、日本にいと錯覚するほどでした。私も見えるところに日本語のものを置かない、頭の中では英語で考えるといったように、日本語イマージョンプログラムを応用することができるので、自分自身の勉強を見直すきっかけになりました。

私の行った授業では、良く話を聞いてくれたのでとても授業がしやすく感じました。反応がとても良いので、授業しているのも楽しく感じました。分かりやすく説明することや、簡単な日本語にして話すことには苦労しましたが、子供たちは理解しようと努力をしてくれたため授業の準備をしてよかったと感じました。

アラスカ大学の訪問では、現地の大学生とランチを食べたり、連絡を交換したりすることができました。初日の緊張感は抜け、自分から話しかけ、連絡も交換するほどの濃い交流ができ両国の学生共に良い経験になったと思います。

最終日にはやっとホストファミリーとゆっくり過ごせました。ブルースくんとは一緒にゲームをしたり、雪合戦をしたりとても楽しい時間が過ごせました。家族でスキーにも行き、最後のご飯にはずっと行きたかった、マクドナルドに連れて行って貰いました。ここまでホストファミリーに良くして貰えて、とても良い経験ができこの事業に参加してとてもよかったと感じました。

今回ホストファミリーにしてもらった事を心に留め、次回参加する人が良い経験ができるように私も協力していきたいです。



アラスカでの経験と思い出

酪農学園大学2年 松岡 基

私が今回の青年海外派遣研修でアラスカに行き学んだことは、まず自分に英語を話す・聞くという能力が足りていないということに改めて感じました。英語を話せないとホストファミリーや友人たちの会話にもなかなか入ることができず、更に話すスピードが速く、自分でどうにかして単語をつなげて伝えることができても、相手の話を聞き取ることができずとても悔しい気持ちになった。しかしその分もっと英語を話せるようになって様々な国の人とコミュニケーションをとりたいと強く思った。もっと英語の勉強をしてまたリベンジしたいと思う。

他に学んだことはもっと積極的になることが大事だということ。アメリカのダイヤモンド高校に行って強く思った。生徒たちは自分が思ったこと感じたことや疑問に思ったことをすぐに発信し、その場で解決し共有していた。それを見て空気を読むことは大事だが、自分は普段周りの目を気にして消極的になり、わからないことをそのままにしまっていたのでもっと積極的にトライしてみようと思った。

次にアラスカに行つての感想は、アラスカの人たちはとても温かい人が多かった。ご飯を食べにお店に行ったときに、誕生日のお客さんがいて店員が皆にそのことを伝えると店内にいる全員がその人をお祝いしていた光景を見て、とても温かいなと感じた。みんな優しく、困っていたり一人でいると必ず声をかけてくれる人がいた。ホストファミリーのおかげで様々な体験をすることができた。ヘラジカやあまり見ることのできないオーロラも少しではあるが見ることができた。食べ物はずべてが大きく必ず満腹になった。一番感動したのはハンバーガーで、とても美味しかった。フレンドリーな人が多く、声をかけてくれてたくさん友達を作ることができた。今回の旅で多くのことを経験して、たくさん学ぶことができ、自分の人生において良い経験値になり、何より一生の思い出にすることができました。



アラスカ研修を振り返って

公立千歳科学技術大学3年 溝 渕 世 朗

アンカレジにてホームステイの体験やダイヤモンド高校、アラスカ大学訪問を行いました。高校では、日本語イメージのクラスやイレクティブクラス（選択科目としての日本語クラス）の他、普通の授業にも参加させていただきました。ダイヤモンド高校で過ごした3日間のうち、1日は8クラスに向けてトヨタ自動車が工場で行っている『カイゼン活動について』の授業を行いました。静かなクラスややる気のあるクラス、全く聞く気のないクラスなど授業中の雰囲気が異なりました。そのような中でもそれぞれのクラスによって話す内容や授業のやり方を工夫することや山本先生やゲラート先生の協力で円滑に授業をすることが出来ました。カイゼンの授業では、生徒の皆さんは、取り組みの概要やワークの目的を話している段階では取り組みの意義を理解してもらえていない様子でしたが、トヨタがカイゼン活動をしているおかげで他社より高く売っても買ってもらえるということを伝えると、納得のいく表情をしていました。

授業を受けていただいた生徒の中には、私がアメリカに行くまで想像していたアメリカ人のイメージと異なり、緊張のあまり俯いてしまう人も多くいました。お昼時にはホストファミリーのお友達も一緒に食事をしましたが、主食となるものがなく、スナックだけの子もあり、現地の学校に行って初めて知ることが多くありました。日本の高校や大学と比較して似ている点異なる点それぞれ見つけることができ、インターンとして参加できてよかったと感じています。

放課後にはホストファミリーとショッピングに行ったり、家でゲームをしたり、散歩に行ったりしました。ショッピングでは消費税こそないものの、物価の高さには驚きました。また、アンカレジには野生動物も多く生息しており、アイスバイクをしている際にムースに遭遇し、ホストファミリーの子と記念撮影をしました。

1週間と短い期間ではありましたが、ホストファミリーと話すうちに次第に会話できるようになっていきました。次回会うときには英語で日常会話ができるような語学力を身につけていきたいです。



アラスカでの1週間

公立千歳科学技術大学3年 柳原真子

私は、初日空港にホストファミリーが迎えに来てくれた日は緊張していました。しかし、ホストファミリー全員がすごく優しく、一緒に1週間過ごすことが楽しみになりました。1週間の間で、ホストファミリーに山や海に連れて行ってもらったり、買い物やゲーム、映画を観たり、私がしたかったことを全て叶えてもらいました。また、お母さんが毎日美味しいご飯を作ってくれ、中でも生地から作ったピザがすごく美味しかったです。

学校では、初日は1日ホストファミリーの子と一緒に行動し様々な授業に参加させてもらい、2, 3日目に日本語のクラスで授業を行いました。日本語のクラスでは、生徒のみんなが日本についての様々なことを質問してくれ、日本にすごく興味があることが伝わり嬉しかったです。また、授業では最初は不安でしたがみんなの反応がすごく良く、どのクラスでの授業も楽しかったです。

授業外では、放課後のクロスカントリースキーに参加させてもらいました。2日目はスキーを行わず、校内でローラースケートをしました。学校に、スキーやローラースケートのシューズがあることに驚きました。私は、ローラースケートが全然できなかったのですが、たくさんの子が手を引っ張ってくれたりアドバイスをくれたりして、一緒に並走してくれすごく楽しかったです。

今回、アラスカで1週間過ごし多くの方と関わって貴重な経験ができました。特にホストファミリーとは毎日たくさん様々な話をし、一緒に多くのことができて楽しかったです。いつか、もう一度アラスカに行きホストファミリーに会いたいです。

私は、今回の海外派遣研修で言葉がわからず上手く言いたいことを伝えることができなくても、積極的に話しかけコミュニケーションを多くとることが大切だと学びました。これから大学卒業すると、今まで以上に多くの方と関わる機会が増えると思うので、今回の経験を活かしていきたいと思っています。



アラスカでの研修を振り返って

酪農学園大学4年 山本由希

2月6日から13日の日程で、サンドレイク小学校でのインターンシップや、アラスカ大学で日本語を学ぶ学生と交流したり、ホストファミリーとの交流を行いました。

小学校でのインターンシップは、小学6年生に「日本食について」の授業を2回行いました。授業ではまず、「甘味・塩味・酸味・苦味・うま味」の5つの基本の味について確認しました。特にうま味については初めて学んだ子がほとんどでした。そこで日本の味、味噌汁を試食してもらいました。おいしいと言ってうま味が日本食だけではなく、世界で親しまれる食材にも含まれていることを伝えました。授業を通して、何か食べることや味についてもっと興味を持つきっかけになったと思います。

ホームステイでは、ホストファミリーが様々なところに連れて行ってくれました。毎日スーパーに連れていってくれたり、とても大きいピザやステーキなどを食べさせてくれました。家では、おりがみを一緒に折ったり、UNOをしたり、お茶を点てたり、たくさん交流することができました。中でも一番印象に残っていることは、ホストファミリーの子に教えてもらいながらチェロを弾いたことです。何もわからない私に、弓の持ち方や弦の押さえ方、手の動かし方を丁寧に教えてくれました。一生懸命教えてくれて弾けるようになったことがとても心に残っています。また、最終日に私が卵焼きを作って、家族みんながおいしいと喜んで食べてくれたことが一番嬉しかったです。普段は卵料理をあまり好まず、避けてきたホストファミリーの子が、とてもおいしいと黙々と食べてくれて作った甲斐がありました。新しい味に触れたことで、もっと食べることへの興味が広がってくれたらと強く感じました。

私にとって学生最後の経験として、参加することができ、とても有意義なものとなりました。



青年海外派遣研修を終えて

千歳国際・友好都市交流協会 事務局長 古島 知 明

「千歳国際・友好都市交流協会」は、本市と国内外の姉妹都市及び友好都市との交流事業を、より一層推進することを目的として、前身の「千歳姉妹都市交流協会」と「千歳国際交流協会」が発展的に解散し統合することで、新たに令和3年4月に設立されました。

青年海外派遣研修は、前身の「千歳国際交流協会」から、2年に一度実施しており、直近では、令和元年度に、日本企業への視察を主な目的として、オーストラリア・シドニーを訪問しています。

COVID-19の影響により、令和3年度の実施は見送られましたが、1年のスライドにより、今回、無事に再開できたことは、協会事務局としても大変嬉しく思っています。

今回は、小学校から高校までの12年間を通して「日本語イマージョンプログラム」を実施している、姉妹都市アンカレジ市を訪問先として、国際的視野を広げる契機としてもらえるよう、昨年9月、市内在住の大学生を対象に募集を行いました。

研修目的としては、ホームステイのほか、サンドレイク小学校、ミアーズ中学校及びダイヤモンド高校でのインターンシップ体験、更には、アラスカ大学アンカレジ校での授業体験を通じ、教育制度や慣習の違いなどを経験してもらうことでしたが、COVID-19の収束が見通せない中での募集であり、果たして応募があるのかどうか、学生たちの反応に一抹の不安があった中、様々な大学から9名の応募があったことは、事務局として大変安堵したところです。

このような経過を踏まえ、今回、派遣研修を実施することができましたが、学生たちは、学年や参加目的に違いはあるものの、インターンシップ体験や異なる国の大学生との交流のほか、ホストファミリーと過ごした時間は、自分たちの生活や価値観を見つめ直す大きな契機になったものと思いますので、この経験を将来の活躍に繋げるとともに、今後も、本市とアンカレジ市との姉妹都市交流の架け橋役として担ってくれることを期待しています。

最後に、今回の研修を快く受け入れていただき、全日程をコーディネートして下さった、サンドレイク小学校の神村先生及びダイヤモンド高校の山本先生を始めとする、日本語イマージョンクラスの先生方のほか、生徒の保護者で構成している「友の会」の皆さまに、改めて感謝を申し上げ、研修報告とします。



令和4年度青年海外派遣研修に参加して

千歳市観光スポーツ部交流推進課交流推進係長 星野 泰 宏

2月6日から13日まで、令和4年度青年海外派遣研修に参加した大学生9名の引率として、姉妹都市であるアンカレジ市を訪問させていただきました。

隔年で実施される本事業は、本来であれば令和3年の夏に実施されるものでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年度と時期をずらしての実現となりました。

今回の派遣研修は、「日本語イマージョンクラス（日本語で授業を行うクラス）」を有するアンカレジ市内の小・中・高校でのインターンシップ体験が主な内容で、研修生は事前に派遣先となる学校と授業テーマを決めて、受入校の教員と連絡をとりながら入念に準備を進め、それぞれの派遣先校で日本文化に関する授業を展開していました。

計画通りに授業が展開できなかった研修生もいたようですが、派遣先校に通う生徒のお宅にホームステイし、ホストファミリーとの共同生活や学校生活をとおして、アメリカと日本における教育制度の違いや文化の違いなどを肌で感じながら、ことばの壁を超えて交流を深め、充実した1週間を過ごしたのではないのでしょうか。

経験で得られたものは意識に深く残るものであり、事前に学習した知識に加え、派遣先校での模擬授業やホームステイの経験は、9名の研修生にとって貴重な財産として心に残ると信じています。

この研修の実現には、長きにわたり姉妹都市交流の中心として、また、日米両国の懸け橋となって活動されている「友の会」の存在が大きく、日本語イマージョンクラスの父母によってつくられた「友の会」メンバーは、ホストファミリーとして研修生を受け入れてくださっただけでなく、心のこもった「おもてなし」で我々引率者との交流時間をつくっていただきました。

参加者全員が無事に帰国した今、あらためて「友の会」の皆さまをはじめ、受入校並びに関係者の方々に感謝を申し上げますとともに、研修生9名の今後の活躍を期待し、研修の報告とさせていただきます。



2度目のアンカレジ訪問を終えて

千歳国際・友好都市交流協会 事務局書記 高橋 美和

1月のミアーズ中学校交流事業・ダイヤモンド高校短期派遣事業に続き、私は2度目のアンカレジ訪問でした。前回の訪問から3週間しか経っていないのに再び盛大な歓迎を受け、嬉しい気持ちと申し訳ない気持ちが入り混じった複雑な心境でした。アンカレジでは無償でホストファミリーを引き受けてくださいます。しかも、多くの方々が喜んで引き受けてくださると聞いて言葉ありません。これも、ひとえに先方の先生方、そして、日本語イマージョンに通う生徒の保護者で構成されている『友の会』の方々のご尽力のおかげです。今回の事業は相互に行われる交流ではありませんので、『友の会』の協力なしでは実施できないものでした。本当に有難く感謝しています。

今回の青年海外派遣研修の参加者は大学生のみで実施しました。例年、夏休みに実施されることが多く、高校生も対象にしていたのですが、コロナ禍で感染状況がどうなるのか不透明な中で事業計画だったため、時期を最大限後伸ばしにし2月となりました。研修目的についても今までは派遣先の日本企業を訪問・視察とすることが多かったのですが、今回は対象を大学生のみとしたこともあり、日本語イマージョン教育が盛んに行われているサンドレイク小学校、ミアーズ中学校、ダイヤモンド高校に派遣しインターン体験をすることをメインに、更にアラスカ大学で日本語授業に参加するというものにしました。

学生たちは事前に授業プランを作り、派遣先の先生たちと連絡を取りながら内容を詰めるという課題をこなして出発しました。参加学生の多くは教師を目指しているわけではなかったため、慣れない難しい作業だったかもしれません。しかし、現地で行った学生たちの授業はそれぞれが個性のある素晴らしいものでした。中にはうまくいかない回もあったかもしれませんが、各自複数回の授業を行う機会があったので、軌道修正することができたと思います。人々のコミュニケーション能力の低下が指摘されている現在、解りやすく人に物事を伝える力はとても重要です。その意味で、母国語が異なる児童・生徒へ向けて授業を行い、何かを伝えることができたという経験はとても貴重であり、間もなく社会へ出ていく彼らにとってはかけがえのない体験となったことでしょう。

また、アラスカ大学では日本語授業に参加し、同年代の学生と交流する機会を持てたことも、とても有意義なものであったに違いありません。改めて日本語の難しさを実感し、その難しい日本語を流暢に話すアラスカ大学の学生たちから刺激を受けつつ自らを振り返る機会となったのではないのでしょうか。今後の活躍を期待しています。

第1回説明会

2022年11月12日（土）9時30分～12時30分 市役所第2庁舎1階会議室1・2にて開催。

川瀬正明団長の挨拶から始まり、自己紹介、事業概要、日程、旅行保険などについて説明。その後、事務局から研修内容を説明をし、サンドレイク小学校の神村先生ともリモートで繋ぎ、各参加者の研修希望を聞き取りました。



川瀬団長のあいさつ

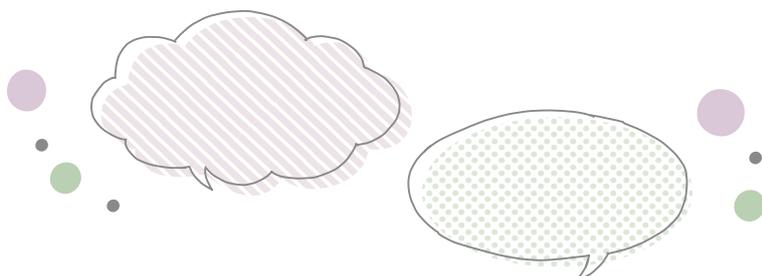


アンカレジ市とリモートで繋いでいます！

第2回説明会

2022年12月21日（水）18時30分～20時00分 市役所第2庁舎2階会議室5・6にて開催。

事務局からESTA等渡航手続きの説明の後、インターンシップでの授業内容についてそれぞれ発表しました。その後、川瀬団長による座談会で交流を深めました。



出発前表敬訪問

2023年1月20日（月）16時00分～16時30分 市役所議会棟2階大会議室にて山口千歳市長を表敬訪問しました。

参加者全員が、決意や抱負を述べました。

市長表敬訪問後は第3回説明会を実施し、最終の打ち合わせを行いました。



荒井さんの代表あいさつ



それぞれの抱負を発表



山口市長から激励の言葉



2023年2月6日（月）～研修1日目～

いよいよ研修がスタートしました！10時30分に新千歳空港国内線ターミナルの会議室1Bで
出発式を行った後、12時55分発日本航空510便で羽田空港へ向けて出発。



派遣学生を代表して山本さんがあいさつ





いよいよ羽田空港に向け出発です



リムジンバスで成田空港へ移動します



機内食も楽しめました



シアトルに到着！
これからドキドキの入国審査です



無事に？入国審査を終え、
国内線へ移動します



18時35分にアンカレジ空港到着！到着ロビーに出ると、ホストファミリーのみなさんが受け入れ学生の名前の入ったポスターを持って出迎えてくれました。





ホストファミリーからサプライズプレゼント！



川瀬団長によるあいさつ



2023年2月7日（火）・9日（木）・10日（金）～研修2日目・4日目・5日目～

いよいよインターンとしての研修がスタート！

■サンドレイク小学校でのインターンシップの様子

志賀さん、荒井さん、山本さん、佐藤さん、西村さんがサンドレイク小学校で研修を行いました。



6年生『日本食を知ろう！』



味噌汁ってどんな味？





6年生『名刺を作って交換してみよう!』



『どうぞよろしくお願いします!』



5年生『あやとりをやってみよう!』



4年生『日本の昔の遊びを体験してみよう!』



児童たちはまだ陽が登らないうちに登校。
校舎が開くまでは並んで待っています。





児童たちとランチタイム♪
学年毎に交互に講堂で



年長組のランチの様子
年長さんは教室で



■ミアーズ中学校でのインターンシップの様子

柳原さんがミアーズ中学校で研修を行いました。



日本のまんがで知ってるものはありますか？



自分だけのキャラクターを描いてみよう！



いろんなキャラクターができました～

■ダイヤモンド高校でのインターンシップの様子

嶋宮さん、松岡さん、溝渕さんがダイヤモンド高校で研修を行いました。



アンカレジの観光産業を考えよう！



日本のまんがで好きなものはありますか？



『カイゼン』って知っていますか？



パズルをできるだけ早く完成させよう！



どのようにカイゼンできるかな？





ランチタイムはホストが用意してくれたお弁当を！

2023年2月8日（水）～研修3日目～

■アラスカ大学アンカレジ校での授業体験



アラスカ大学アンカレジ校（UAA）



大学内にある日本文化教育センター（茶室）
ここで四季折々にイベントを開催しています



日本語の授業に参加しました



日本のポップカルチャーにはどんなものがありますか？

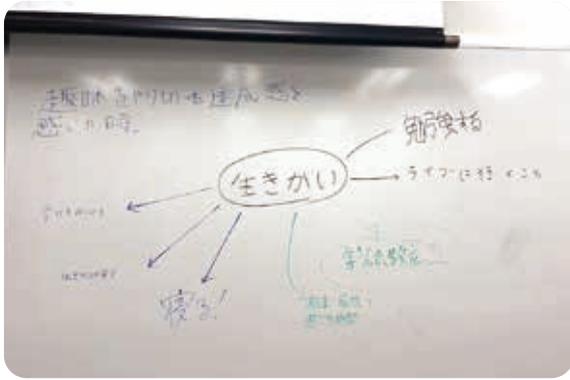




現地の学生と共に日本語のテストを受ける



『生きがい』について討論



う〜ん、難しいテーマですねえ…



大学の入り口にムース出現!!



大学内のカフェでランチタイム



とっても楽しい交流ができました！



日本に興味をもってくれてありがとう！



授業の後も引き続き交流



楽しいひとときを過ごしました！

2023年2月11日（土）～研修6日目～

終日、ホストファミリーと過ごし、楽しい思い出ができました！

saki



Narumi



Motoki



僕はコシです





Mizuho



Miki



Yoo



Reina

Yuki



Mako



2023年2月12日（日）・13日（月）～研修7日目・8日目～

あっという間の1週間。早朝にもかかわらずホストがお見送り。涙・涙のお別れでした。





早朝5時アンカレジ発、アラスカ航空188便
でシアトル空港へ。雪のため30分遅れて離
陸。



新千歳空港到着

21時40分、新千歳空港に到着。あっという間の8日間でした。



新千歳空港到着後、川瀬団長から挨拶



みなさんお疲れさまでした！



過去の青年海外派遣研修の実績

実施年	訪問先	参加者	人数	実施日
平成5年度	アメリカ アラスカ州 (アンカレジ市)	小学生	20名	平成6年(1994年) 3月25～30日
平成6年度	マレーシア・ シンガポール	中学・高校生・ 大学生	12名	平成7年(1995年) 3月26～31日
平成7年度	タイ・ベトナム	市 民	12名	平成7年(1995年) 12月11～16日
平成9年度	インドネシア	市 民	6名	平成9年(1997年) 12月7～13日
平成11年度	香港	中学生	8名	平成12年(2000年) 1月9～14日
平成14年度	中国 吉林省 (長春市)	高校生	13名	平成15年(2003年) 1月8～12日
平成16年度	インド	高校生	6名	平成17年(2005年) 1月9～15日
平成18年度	カンボジア・ベトナム	中学・高校生	10名	平成19年(2007年) 1月8～13日
平成21年度	中国 吉林省 (長春市)	中学・高校生	15名	平成22年(2010年) 1月9～13日
平成23年度	パラオ共和国	中学・高校生	13名	平成24年(2012年) 1月5～11日
平成25年度	ノルウェー王国 (コングスベルグ市)	中学・高校生	14名	平成26年(2014年) 1月6～13日
平成27年度	台湾	中学・高校生	24名	平成28年(2016年) 1月5～11日
平成29年度	アメリカ ハワイ州	高校生・大学生	15名	平成30年(2018年) 1月10～15日
令和元年度	オーストラリア (シドニー)	高校生・大学生	15名	令和元年(2019年) 8月1～6日

3. 合同市民報告会

【実施日時】	2023年2月25日（土）13時30分～16時
【会 場】	北ガス文化ホール 中ホール

2023年2月25日（土）13時30分から、北ガス文化ホール 中ホールにてミアーズ中学校交流事業、ダイヤモンド高校短期派遣事業、青年海外派遣研修事業、そして千歳アイヌ文化国際交流事業との合同報告会を開催しました。

報告会には約100名の来場者が訪れ、参加者はそれぞれの事業の訪問成果を発表しました。



ミアーズ中学校交流事業
岩本さんの代表あいさつ



ダイヤモンド高校短期派遣事業
中津さんの代表あいさつ



青年海外派遣研修
佐藤さんの代表あいさつ



中学生の訪問成果発表



中学生の訪問成果発表



中学生の訪問成果発表



高校生の訪問成果発表



高校生の訪問成果発表



大学生の訪問成果発表



大学生の訪問成果発表



千歳国際・友好都市交流協会 川瀬会長による総評

■川瀬会長総評 要約

みなさん大変貴重な経験をされてきたこと
と思います。これから、ダイヤモンド高校長期
交換留学事業も始まりますので、アンカレジ
市と千歳市の交流がますます発展すること
を期待しています。



千歳市長による総評

■千歳市長総評 要約

今回は4団体の皆さんが、それぞれの目的
を持ってアンカレジを訪問しました。今回の
報告で、個々皆さんが成果を得て帰国された
ことは非常に喜ばしいことです。

今後も、この経験を生かして活躍すること
を期待します。

お世話になった先生方



ミアーズ中学校 8年生担任
CHAMBERS Hiromi 先生



ミアーズ中学校 7年生担任
LOER Kiyoko 先生



ダイヤモンド高校
YAMAMOTO Daisaku 先生



ダイヤモンド高校
GELLERT Victoria 先生



サンドレイク小学校 6年生担任
KAMIMURA Haruki 先生



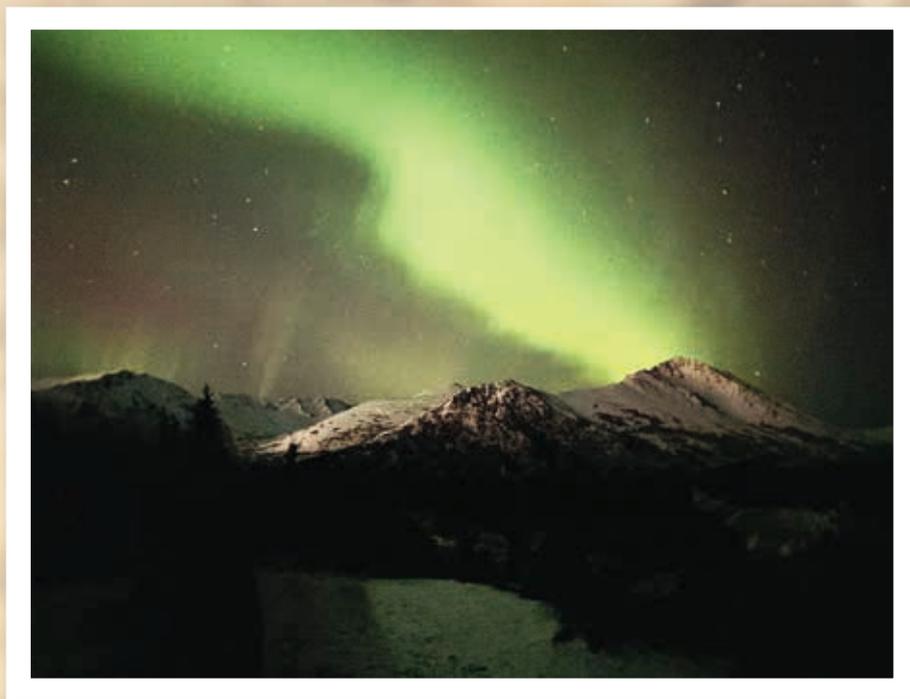
サンドレイク小学校 5年生担任
MATSUSHITA Izumi 先生



サンドレイク小学校 4年生担任
SHRESTHA Kaori 先生



アラスカ大学
HARADA Hiroko 先生



『令和4年度 ミアーズ中学校交流事業・
ダイヤモンド高校短期派遣事業・青年海外派遣研修』

発行 2023年3月
発行者 千歳国際・友好都市交流協会
所在地 〒066-8686
千歳市東雲町2丁目34番地
千歳市観光スポーツ部交流推進課国際交流係内
電話 0123-24-0482
FAX 0123-22-8851
E-mail kokusai@city.chitose.lg.jp



千歳国際・友好都市交流協会
ホームページ